

市町村名 嘉手納町

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-	道の駅かでな機能拡充事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				圏域の特色を生かした産業の振興
				-1-(1)

事業内容 道の駅かでなは、年間約50万人の観光客が来場するが、展望場で米軍基地を展望した後、すぐ施設を退館する通過型の施設になっている。このような課題を解決し、道の駅かでなの観光誘客施設としての魅力を高めるために、道の駅かでな機能拡充基本計画を策定するとともに、観光客の受け入れに不足している駐車場用地を取得し、観光産業の推進による地域活性化を図る。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	221,660	8,370		
		(b)予算現額	158,665	149,517		
		(c)増減額(b-a)	62,995	141,147		
		(d)繰越額	-	-		
		A.計(b+d)	158,665	149,517		
		B.執行済額	158,663	149,138		
		うち交付金充当額	126,928	119,310		
		次年度繰越額	-	-		
		執行率(%) (B/A)	100.0%	99.7%		
		予算の状況の説明	道の駅かでなの機能拡充にあたり必要な用地を取得するため予算の増額(141,147千円)を行った。用地買収については不動産鑑定により、適正な鑑定評価を決定し事業計画どおりに予算執行した。			

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
道の駅かでな機能拡充基本計画の検討	目標	()	道の駅かでな機能拡充基本計画の検討	()	()
	実績		道の駅かでな機能拡充基本計画の検討を実施		
機能拡充に必要な用地取得(面積:2,459㎡)	目標	(用地取得)	機能拡充に必要な用地取得(面積:2,459㎡)	()	()
	実績	用地取得	用地取得(面積:2,459㎡)		
達成状況説明	道の駅かでな機能拡充基本計画を検討するにあたってワークショップを3回開催、施設管理報告書の内容分析を行うことで計画条件の整理検討を行い、問題点及び課題を明確にし、その解決のため機能拡充の方針を設定した。用地買収にあたっては不動産鑑定により、適正な鑑定評価を決定し、2,459㎡の用地を取得した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
			道の駅かでな機能拡充基本計画策定	()	()	道の駅かでな機能拡充基本計画策定
				道の駅かでな機能拡充基本計画策定		
	用地取得(用地取得率:100%)	()	(3,079㎡)	(100%)	()	()
			2,893㎡	100%		

進捗状況説明 道の駅かでな機能拡充基本計画の策定にあたり、まず道の駅かでなの現状を把握し、問題点、課題を抽出するためワークショップを3回開催、施設管理報告書等の内容分析を行った。抽出した課題解決のため整備方針を設定し、施設整備の基本的な考え方を明確にするため整備基本計画を策定、健全な施設管理運営を実施するために経営管理運営方法及び事業収支計画を検討、基本計画策定までの効率的な事業実施のため事業実施計画を策定した。用地の取得については、道の駅かでな機能拡充基本計画内で該当箇所を低未利用地として位置づけどのように利活用するか、より具体的に検討した。計画では駐車場としての利用を想定し、道の駅かでな建設当時の計画と平成22年交通センサスとの比較、県内の他の道の駅の駐車場台数の聞き取り等も行い、規模、用途等を検証したうえで、必要な面積の100%にあたる土地を取得した。

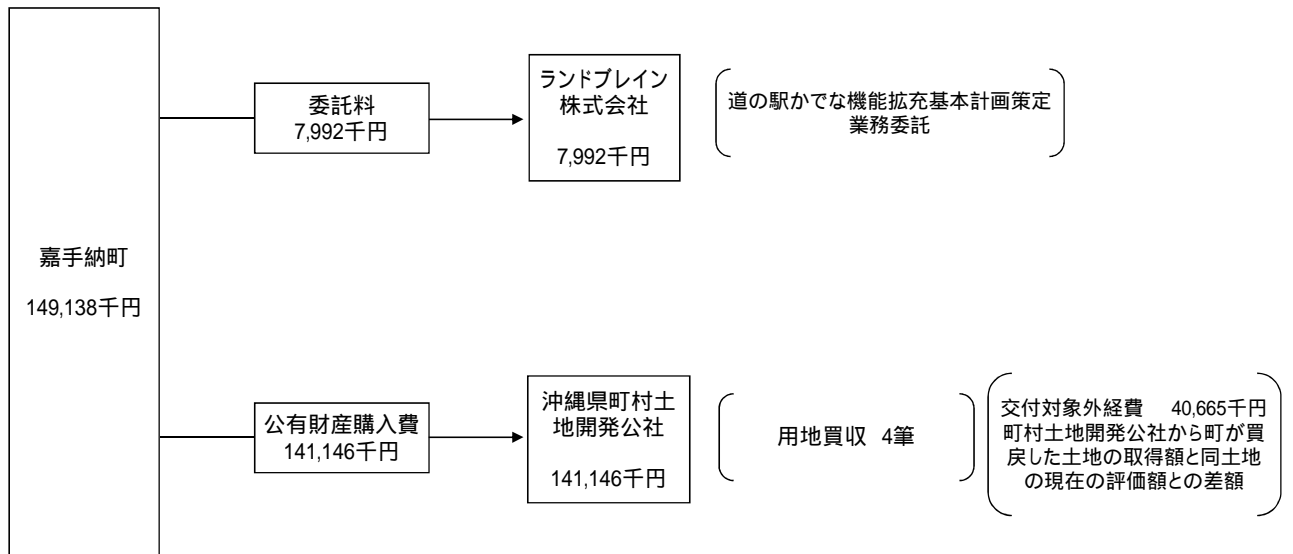
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>現況の道の駅かでなは、建設当時と比較して来訪者が増加しているが、来訪者数の増加は館内の店舗等の売り上げや客単価の増加につながっていないことが来訪者アンケート調査によって示された。施設規模の不足、視認性の悪い店舗配置、催事イベントを行いにくい施設構造等の課題を解決するため、平成26年度は道の駅かでな機能拡充基本計画を策定した。基本計画の中では、課題をより具体的に検証し、その解決のために機能ごとの拡充方針、施設整備の方法、施設管理の計画等を決定した。機能拡充を検討していくなかで現施設規模では十分な機能拡充が実施できない事が分析されたため、周辺の低未利用地の利活用も検討した。検討結果として駐車場の不足についても課題が明確となったため、用地取得を行った。今後は基本計画で検証した課題解決のための方針をより具体的に、適正な機能拡充規模、整備内容等を決定するため基本設計を実施する必要がある。</p>	<p>基本設計では平成26年度に策定した基本計画で示された課題解決のための方針をより具体的に、各機能ごとの拡充規模、施設整備方法及び内容を決定するために施設計画の策定、構造基本計画、設備基本計画等の作成、既存建物の調査や設計図の作成を行い、より効率的で効果的な工事実施につなげる。</p>

今後の取り組み方針

平成27年度に一括交付金を活用して実施する「屋良東部地区地域振興施設機能拡充事業」では、平成26年度に策定した基本計画の内容を基により具体的な施設整備方法、適正な機能拡充の規模等を決定するため基本設計を実施する。そして平成28年度以降は実施設計を行い、より効率的で効果的な工事実施につなげる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
189,804	149,138	119,310	29,828	40,665



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>支出先の選定方法については、事業の規模や実績等を勘案し、指名審査委員会にて決定したため妥当だと考える。予算規模は、基本計画策定業務委託については2社以上から見積もりを徴収し、比較検証し、用地買収については不動産鑑定により予算を積算しており妥当だと考える。費目、用途については、精算段階で内容を検証しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	フラワーロード景観整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-イ	
担当部課名	都市建設課	事業実施(予定)年度	平成26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	花と緑あふれる県土の形成	
事業内容	観光客誘客に寄与するため、嘉手納町の中心市街地である嘉手納ロータリー周辺及び幹線道路沿いに色鮮やかな花を咲かせ、魅力ある景観を構築する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	26年度		27年度	28年度	29年度	30年度
		(a)当初予算額	15,112				
	(b)予算現額	15,112					
	(c)増減額(b-a)	0					
	(d)繰越額	-					
	A.計(b+d)	15,112					
	B.執行済額	13,586					
	うち交付金充当額	10,869					
	次年度繰越額	-					
	執行率(%) (B/A)	89.9%					
予算の状況の説明	当初予算額は15,112千円であったが、入札残により、1,526千円の不用が発生した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
	花壇整備及び植栽の設置	目標	(花壇整備及び植栽の設置)	()	()	()	()
		実績	花壇整備及び植栽の設置				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
	達成状況説明	当事業は、嘉手納町の中心市街地である嘉手納ロータリー周辺及び幹線道路沿いに、低木・草本の花木による魅力ある景観の創出が求められることから、樹種選定の検討・設定に先立ち計画箇所の状況を把握し、実施設計を行った。整備工事においても、事業計画スケジュールを計画し、計画的な事業発注を行い事業計画通り完了した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	花壇整備	目標	()	(2箇所)	()	()	()
		実績		2箇所			
	植栽の設置	目標	()	(3箇所)	()	()	()
		実績		3箇所			
	進捗状況説明	成果目標どおり、2箇所で花壇、3箇所で植栽の設置を行った。当整備事業箇所では整備完了後、地域住民の方々等から、「町が綺麗になった」、「道沿いが色鮮やかになり大変景観がすばらしい」等の声を頂いている。今後は、植栽の維持管理に関して、植栽の剪定や、低木等の寄植、除草等を適切に実施し、現状の景観を維持する。					

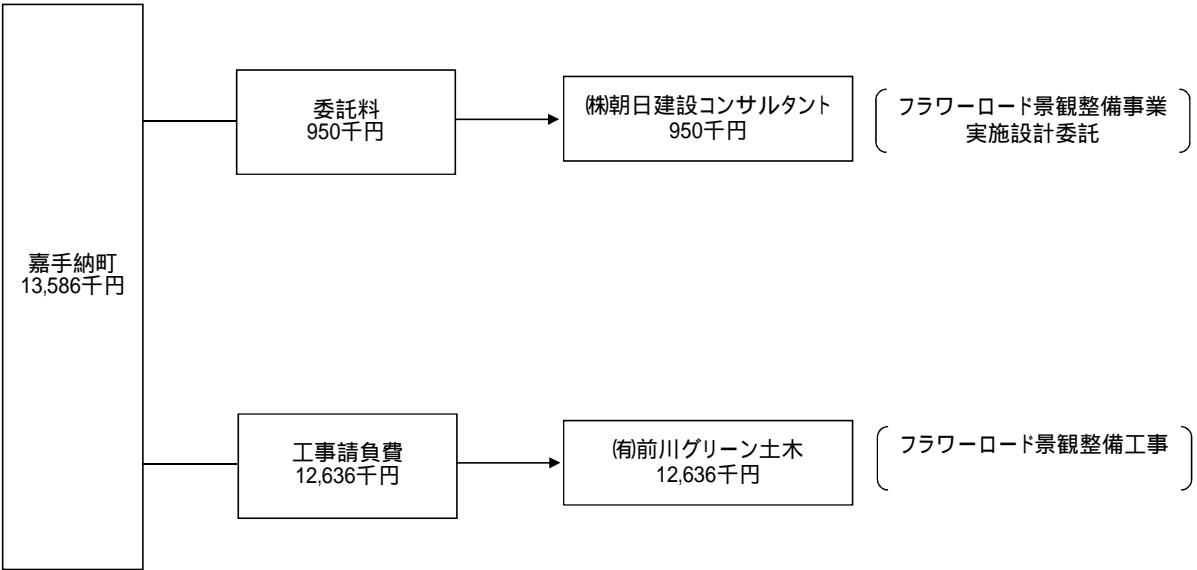
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>嘉手納町の中心市街地である嘉手納ロータリー付近3箇所に於いて、快適な景観を保つため草花植栽を行い観光客や町内外の方々に亜熱帯特有の自然豊かで四季を問わず色鮮やかな花を提供するため沿道への道路景観整備を実施する。</p> <p>平成26年度においては、整備工事実施設計、整備工事を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客は南部から北部へ移動する際に、国道58号線等の幹線道路を使用し移動している。嘉手納町はその通過点となっている現状がある。 ・嘉手納町においての観光地は道の駅かでなが有名だが、他の主要な観光名所がないため、観光客集客が難しい状況にある。 ・設置後の植栽の維持管理が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の各名所に景観整備事業を行い、観光客等が訪れたい観光地としての魅力を高めるため、町内の各名所においても景観整備事業が必要である。 ・設置した植栽に関し、植栽の剪定や、低木等の寄植、除草等を適切に実施し、現状の景観を維持する。

今後の取り組み方針

・今回は、幹線道路沿いの景観整備事業であったが、町内に多数の観光客等を誘致するため、同様の景観整備事業の実施を検討していく。
 ・設置した植栽の維持管理においては、道路植栽ボランティア等を検討する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,586	13,586	10,869	2,717	0



資金の用途の流点検証・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託・整備工事事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 実施設計、整備工事の入札残により事業費の10%の不用額が発生した。 費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	嘉手納町
------	------

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1- うたの日コンサート事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度 平成25～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所
			圏域の特色を生かした産業の振興
			-1-(1)

事業内容 沖縄出身のトップアーティスト「BEGIN」が主体となって開催している「うたの日コンサート」における会場設営に係る経費の一部を補助し、同コンサートを誘致することで多くの観光客を誘客し、町の活性化を図る。

実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()
------	------	----	----	----	---------

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	8,000	8,000		
		(b)予算現額	8,000	8,000		
		(c)増減額(b-a)	0	0		
		(d)繰越額	-	-		
	A.計(b+d)		8,000	8,000		
	B.執行済額		8,000	8,000		
	うち交付金充当額		6,400	6,400		
	次年度繰越額		-	-		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%		
	予算の状況の説明		コンサート会場の設営費及び撤去費の一部を補助して事業計画どおりに予算を執行した。			

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
県内の大型イベントの誘致	目標	(県内の大型イベントの誘致)	()	()	()
	実績	県内の大型イベントを誘致した。			
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	来客数8,000人規模のうたの日コンサートを誘致し、県内外の多くの観光客が本町を訪れる機会を創出し、イベントへの町伝統芸能団体の出演、町優良特産品の出品、町商工業者の出店を実施することで、町の魅力をアピールすることができた。うたの日コンサートにかかる舞台施行費及び会場設営、撤去費の一部を補助し、コンサートを円滑に開催することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
			来場者数:8,000人	()	()	来場者数:8,000人
町特産品のPR:5作品以上	目標	()	町特産品のPR:5作品以上	町特産品のPR:5作品以上	()	()
	実績		町特産品PR:6作品	町特産品PR:10作品		
町商工業者の出店:5店舗以上	目標	()	町商工業者の出店:5店舗以上	町商工業者の出店:5店舗以上	()	()
	実績		町商工業者の出店:9店舗	町商工業者の出店:6店舗		
進捗状況説明	来場者数の目標8,000人の集客を達成することができた。要因としては、周知、広報活動が充実して実施できたこと、また本町でのうたの日コンサート開催は2回目であり、イベントの認知度が向上したことが要因と考えられる。町優良特産品のPR及び町商工業者の出店については町商工会と協力して出店に関する調整を行うことが出来た。そのため目標を上回る町優良特産品が10作品出品、町商工業者は6店舗が出店することができ、効果的にPRすることができた。目標を達成できたことから今後も引き続き、周知、広報活動の早期の実施及び継続的なイベントの実施による定着化、認知度の向上を図り来場者増につなげる。また町優良特産品のPR及び町商工業者の出店についても引き続き町商工会と連携しながら取り組んでいく。					

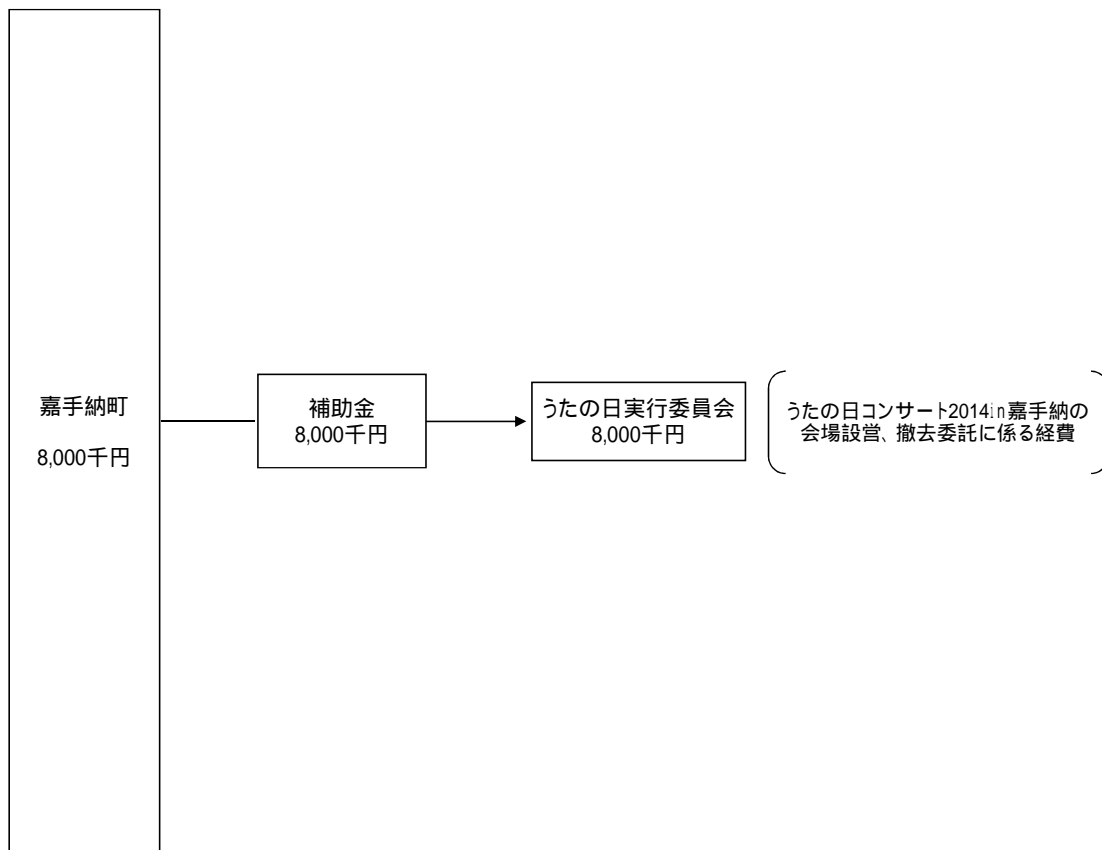
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	観光客誘客による本町の活性化を図るため、沖縄出身のトップアーティスト「BEGIN」が主体となって開催している県内の大型イベント「うたの日コンサート」を誘致し、会場設営に係る経費の一部補助を行った。 コンサート実施にあたり主催団体と会場整備や広報、周知活動、事務作業等でも協力し合い、密に連携をとれたこと、町優良特産品の出品、町商工業者の出店についても町商工会と協力しながら取り組むことで成果目標に掲げた内容を達成することが出来た。 本町のPRのための取り組みとして町伝統芸能団体の出演、町優良特産品の出品、町商工業者の出店を行っているが、観光客誘客による本町の活性化を図るためには更なる関わりを検討する必要がある。	過去の開催実績、内容を検証し、ノウハウとして活用することでより効率的な事業実施を行うことが可能となる。 関係機関への協力依頼(警察への交通整理協力や消防への緊急時の対応協力等)について連携体制を事前に構築しておくことでよりスムーズなイベント実施が可能となる。 本町の魅力をよりPRするためにはイベントへの関わり方を更に強化し、町伝統芸能団体の出演、町優良特産品の出品、町商工業者の出店以外にも新たな取り組みを実施する必要がある。

今後の取り組み方針

主催団体とイベント内容について密に協議し、情報を共有する機会を多くつくること、過去の開催内容の検証もを行い、改善を図ることでより効率的、効果的に事業を実施できるよう努める。
他のイベント等でも積極的に向たの日コンサートの広報、周知活動を行うことで町内でのコンサート開催の機運を高め、協力を依頼する関係機関の理解を得られるよう努める。
目標達成のため、テレビやラジオ、インターネットなど多様なメディアを活用した周知活動を展開することでイベントの定着化、認知度の向上化を図り、集客につなげる。
本町の魅力をよりPRするため、引き続き町伝統芸能団体の出演、町優良特産品の出品、町商工業者の出店を実施すること、また本町の魅力をよりPRすることのできる新たな取り組みを実施できるよう主催団体に要請していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
8,000	8,000	6,400	1,600	0



資金の流 れ、評 価目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
			支出先の選定方法は妥当か。	支出先の選定方法は、事業を実施するうたの日実行委員会より嘉手納町への要請があり団体への補助を決定したので妥当である。
			予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模については、事業内容、事業開催条件、事業規模を確認し、補助金を支出したため適正だと考える。
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	費目・用途については額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であると判断した。
			費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町									
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	1-	屋良城跡公園総合再整備基本計画策定事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ					
担当部課名	都市建設課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 -1-(1)					
事業内容	観光資源に乏しい本町においても、屋良城跡公園及び比謝川沿岸部等風情のある場所を有しており、近年では自然を生かしたエコツアーや川祭りの開催等観光源となりうる素材が増えつつある。 そのようなことから、城跡の名勝や比謝川の自然を体験する設備を整備することで、観光入域客数の増加や地域活性化を図り、魅力的な嘉手納町の形成を目指し、基本計画を策定する。										
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度	
		(a)当初予算額	3,885	6,415							
		(b)予算現額	3,245	6,415							
		(c)増減額(b-a)	640	0							
		(d)繰越額	-	-							
		A.計(b+d)	3,245	6,415							
		B.執行済額	3,244	6,372							
		うち交付金充当額	2,595	5,097							
		次年度繰越額	-	-							
		執行率(%) (B/A)	100.0%	99.3%							
予算の状況の説明		・事業計画通りに執行した。 ・当初予算額は、6,415千円であったが、入札残により不用額43千円が発生した。 ・履行期間中における変更等もなく、また出来高不足もなかったことから当初契約額と変更なしで精算した。									
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況								
			26年度		27年度		28年度		29年度		
	H25年度にて執行した基礎調査業務に引き続いて、基本計画策定業務を実施		目標	(基本計画策定業務の実施)	()	()	()	()	()	()	
			実績	基本計画策定業務の実施							
			目標	()	()	()	()	()	()	()	
			実績								
達成状況説明		・関係者ヒアリングを行い、公園整備に関する歴史的視点、観光的視点の見地から専門的意見を徴取した。 ・屋良城跡公園が抱える問題課題等を把握し再整備に向けた方向性を確認するため、ワークショップを行った。 ・上記内容及び平成25年度の成果を踏まえ、公園再整備計画の基本的な考え方、施設計画の方針、公園機能の再整理、再整備基本計画を取りまとめた。 ・再整備の方向性のあり方を精査・検討する為庁内検討会議を設置し計画内容を審議した。 ・計画内容に住民等の意向を反映させる為、パブリックコメントを実施した。									
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)				
	基本計画の策定		目標	()	(基本計画の策定)	()	()	()			
			実績		基本計画の策定						
			目標	()	()	()	()				
			実績								
	進捗状況説明		・関係者ヒアリングを行うことで、観光に関するニーズや歴史的な価値等について計画に盛り込むことができた。 ・ワークショップを行うことで、屋良城跡公園再整備に対する住民等の要望や活用方法を把握することができた。 ・計画素案を庁内検討会議にて審議した結果、関係各課による計画に対する様々な意見を把握することができた。 ・パブリックコメントを実施した結果、計画内容に対する問題点の有無を把握することができた。 平成27年度は、26年度までに実施した基本計画を基に、基本設計を行う。								

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本事業は城跡の名勝や比謝川の自然を体験してもらうことで、観光入域客数の増加や地域活性化を図り、魅力的な嘉手納町の形成を目指すことを目的として、既設公園の再整備を行うものである。</p> <p>26年度は25年度で実施した基礎調査(住民アンケート・現地調査・問題・課題の抽出)の結果を踏まえ、観光関係者ヒアリング・ワークショップ・庁内検討委員会を実施しい本計画を策定した。</p> <p>関係者ヒアリングを行った結果、歴史的観点より屋良城跡公園が城跡に立地し、公園のほぼ全域で埋蔵文化財調査が行われていないことから、再整備をおこなう際には埋蔵文化財調査を行う必要があることが判明した。</p> <p>屋良城跡公園は公園全域が鳥獣保護地区に指定されており、建築物その他工作物の新築・改築・増築、水面の埋め立て・干拓、木材の伐採について県知事の許可が必要となる。</p>	<p>平成26年度において策定した基本計画を踏まえ、基本設計では計画内容を具体化させることを念頭に現地の地形状況等を勘案し技術及び経済性の観点から、工事に必要な基本設計を検討する。</p> <p>埋蔵文化財調査においては、構造物の配置、造成計画が出来上がる基本設計・実施設計にもとづき、本町教育委員会との調整が必要となるため、27年度より逐次協議を行い円滑な事業執行につなげる。</p> <p>本事業では、樹木の伐採等も検討していることから、沖縄県からの許可が得られるよう調整していく。</p>

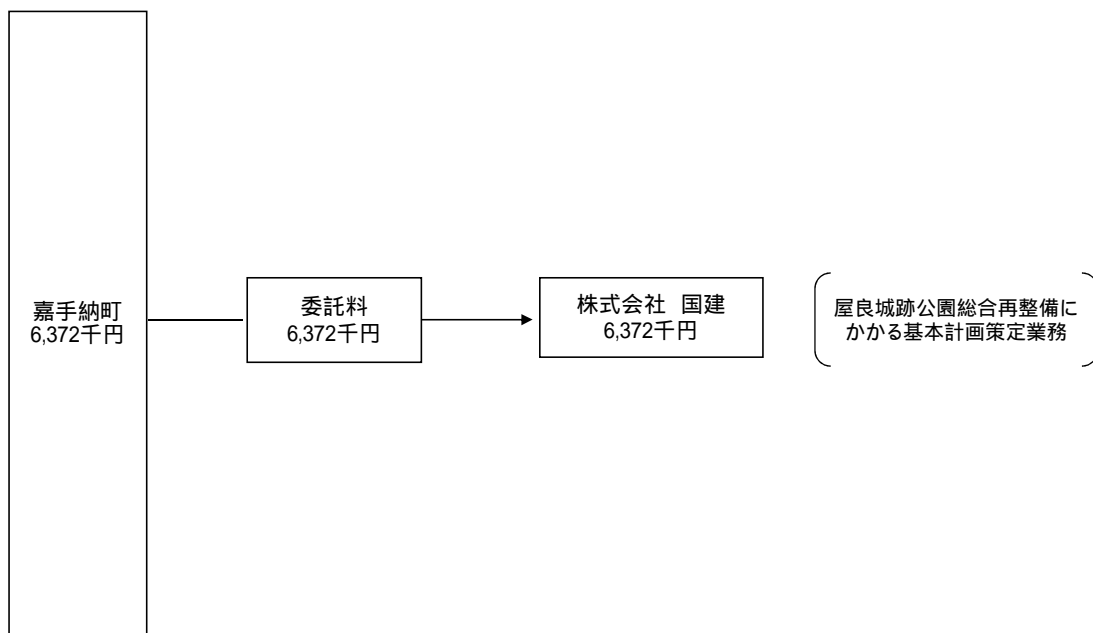
今後の取り組み方針

多くの人々に利用される華やかな公園として整備する為、平成27年度では平成26年度までに取りまとめた基本計画に基づき基本設計を行う。平成28年度は実施設計を行い具体的な構造物の配置・事業費の算出等を行う。平成29年度以降で整備工事を実施する。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
6,372	6,372	5,097	1,275	0



資金の流れ、費目、使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・支出先の選定方法に関し、指名競争入札により決定した。県内において、公園基本構想及び基本計画策定業務の実績を有する業者を指名し入札に付したことにより、同等程度の実力の業者間で価格競争が促されたことにより、事業遂行能力及び経済性をも勘案した内容での発注ができた。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模については不用額が事業費の1%以内であり適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目及び使途については、屋良城跡公園総合再整備基本計画業務を実施するうえで、事業目的に沿った支出であり適正であると考えられる。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	比謝川緑地広場整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ	
担当部課名	都市建設課	事業実施(予定)年度	平成24～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 -1-(1)	
事業内容	<p>本町は、米軍基地が町域の83%を占める特異な地域であるが、比謝川等風光明媚な場所も有しており、近年では自然を生かしたエコツアーの開催等観光資源となりうる素材が増えつつある。 そのことから、古くからの景勝地で今ではエコツアーを開催している比謝川の自然を観光客に体験してもらうことで、観光入域客数の増加や地域活性化を図り、魅力的な嘉手納町の形成を目指す。</p>						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A.計(b+d)	(a)当初予算額	20,400	14,000	-	14,000	
		(b)予算現額	20,400	14,000	-	14,000	
		(c)増減額(b-a)	0	0	-	0	
		(d)繰越額	-	-	5,563	-	
		A.計(b+d)	20,400	14,000	5,563	14,000	
	B.執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)	B.執行済額	20,075	0	5,562	13,824	
		うち交付金充当額	15,650	0	3,948	11,059	
		次年度繰越額	-	5,563	-	-	
	執行率(%) (B/A)	98.4%	0.0%	100.0%	98.7%		
予算の状況の説明	当初予算額では14,000(千円)(委託)であったが、不用額の176(千円)は入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	緑地広場実施設計の実施(嘉手納町字水釜地内)	目標	緑地広場実施設計の実施(嘉手納町字水釜地内)	()	()	()	()
		実績	緑地広場基本設計の実施(嘉手納町字水釜地内)				
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に基本設計を行い、平成26年度に実施設計を行う予定であったが、平成25年度には基本計画を実施したため、平成26年度は基本設計の実施となり活動目標を達成できなかった。 基本設計では、施設への進入路の基本設計、緑地、浮棧橋及び管理棟などの整備のための基本設計を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	緑地広場実施設計の完了(嘉手納町字水釜地内)	目標	()	緑地広場実施設計の完了	()	()	()
		実績		緑地広場基本設計の完了			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度に実施設計を行う予定であったが、平成25年度には基本計画を実施したため、平成26年度は基本設計の実施となり成果目標を達成できなかった。 施設の進入路の基本設計、緑地帯の基本設計、浮棧橋等の基本設計、東屋等の基本設計、土木、建築工事費概算の算出等を行った。 パース図を作成し、配置イメージの作成を行った。 今回の基本設計でとりまとめた内容を平成27年度事業予定の実施設計に反映する。 						

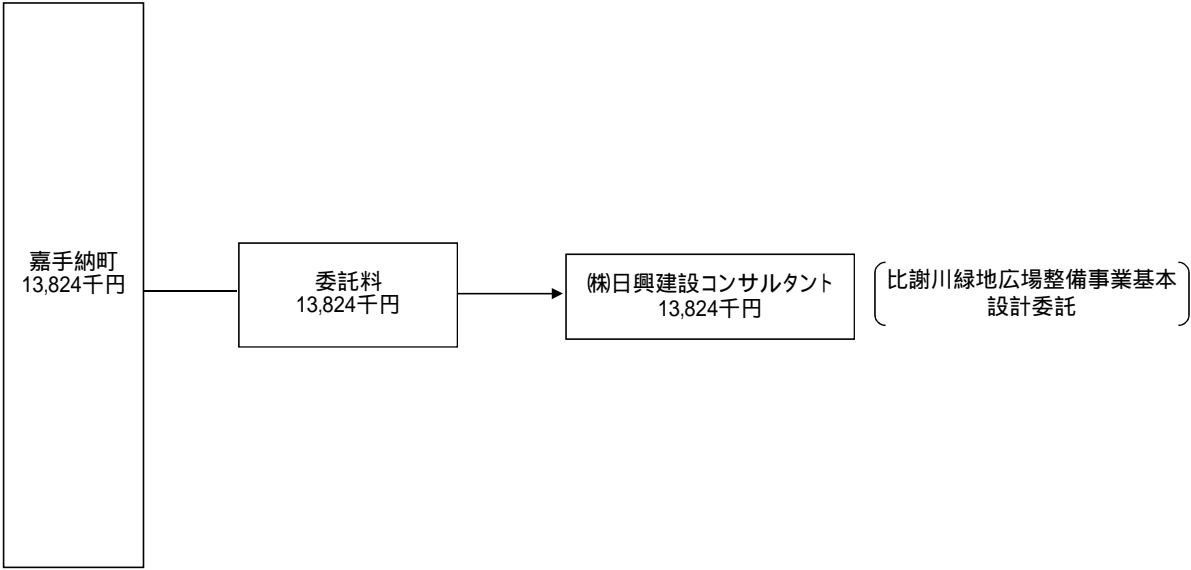
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 比謝川は沖縄本島で最大の二級河川で、水辺、緑を初めとする、自然環境が豊富である。特に下流域の感潮域ではマングローブを観察しながらカヌーなどの水辺でのレクリエーションやイベントが行われるなど、町民、来訪者および観光客に親しまれている。また、平成25年度に実施した基本計画策定においても、カヌー施設やレクリエーション施設の強化が望まれている。基本設計では、町道82号線、緑地、浮桟橋および管理棟などの整備のための基本設計業務である。 町民の来訪者及び観光客が多数訪れる箇所であるため大型バス等が通過でき、旋回できる道路の確保が必要(基本計画策定時のワークショップや現状より) 駐車場広場において、管理棟と、駐車場及びバス旋回広場の配置案を比較検討し、最適案を選定する必要がある。 管理用道路の検討(BBQ広場への資材等の運搬に使用) 駐車場広場およびBBQ広場において、造成を行うため、擁壁が発生する。 本設計業務において浮桟橋は最も重要な施設であることから、複数の案を選定しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 大型バスの旋回については、既存の道路を拡幅することにより対応できる。 駐車場広場案は最適な工法を比較検討し、配置計画を検討する。 管理用道路は既存の遊歩道の一部を使用する。 駐車場広場、BBQ広場の擁壁に関して、基本設計であることから、擁壁のタイプは比較検討は行わないが、擁壁の設計計算は行う。 浮桟橋については、複数案を選定し、経済性、施設の規模等から最適案を選定する。

今後の取り組み方針

多くの人々に利用される施設を整備する為、平成26年度にとりまとめた基本設計に基づき平成27年度は比謝川緑地広場への進入路の整備工事実施設計を行う。
 今後の事業予定として、平成28年度に施設の実施設計、アクセス道路の整備工事、平成29年度以降に施設の整備工事を予定している。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
13,824	13,824	11,059	2,765	0



資金の 用途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 設計業務については標準積算基準書を準拠し、積算し不用額は事業費の2%以内であり適正な規模であった。 費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	嘉手納町
------	------

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1- 嘉手納町観光客受入体制整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度 平成26年度	国際的な沖縄観光ブランドの確立
		沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)

事業内容 嘉手納町観光振興基本計画に基づき、観光振興の基盤となる人材の確保・育成を目的としてこれからの嘉手納町を担う人材の育成を推進する。また、本事業を実施することにより、新たに本町を訪れた観光客に町の魅力をアピールすることで、観光客誘客の促進が図られる。

実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()
------	-----------------------

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	2,402				
	(b)予算現額	2,402				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)	2,402				
	B.執行済額	2,133				
	うち交付金充当額	1,706				
	次年度繰越額	-				
	執行率(%) (B/A)	88.8%				
予算の状況の説明	講座内容の見直しを行ったことで教材等の不用分が発生し、精算時に委託費のうち人件費、旅費、諸経費について269千円を減額したため不用が生じた。					

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度
		研修講座	目標 (研修講座)	()	()	()
	実績	研修講座の実施				
先行事例視察	目標 (先行事例視察)	()	()	()	()	
	実績	先行事例視察の実施				
達成状況説明	沖縄の歴史、嘉手納町の歴史・産業の知識、ガイドの技術等を習得するための研修講座を、20回実施し、受講者の受講状況に合わせて補講等も行ったこと、毎回講座終了後アンケートも実施し、受講者の講座内容の理解度を把握し、講座運営に反映した。先行事例視察については、那覇市、宜野座村の県内2か所の先進地を3回視察し、実際の観光ガイドのプログラムを体験することでより実践的な研修内容となり、ガイド育成に向けた効果的な実地研修を行うことができた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
		観光ガイドの育成人数:5名	目標 ()	観光ガイドの育成人数:5名	()	()	()
			実績	観光ガイドの育成人数:10名			
		目標 ()	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	観光ガイドの育成人数を5名と目標設定していたが、研修講座を20回実施したこと、受講者の受講状況に合わせて補講等も行ったこと、毎回講座終了後アンケートも実施し、受講者の講座内容の理解度を把握し、講座運営に反映したことで効果的な講座運営を行うことができたため、設定していた目標人数を上回る10名の観光ガイドを育成することができた。実地研修や先進地視察を行うことで、より実践的な講座内容となり、観光資源等を活用した新しいコースの企画・造成方法についても学ぶことで、嘉手納町のまち歩きコース「嘉手納町17%のまち歩きコース」も造成することができた。						

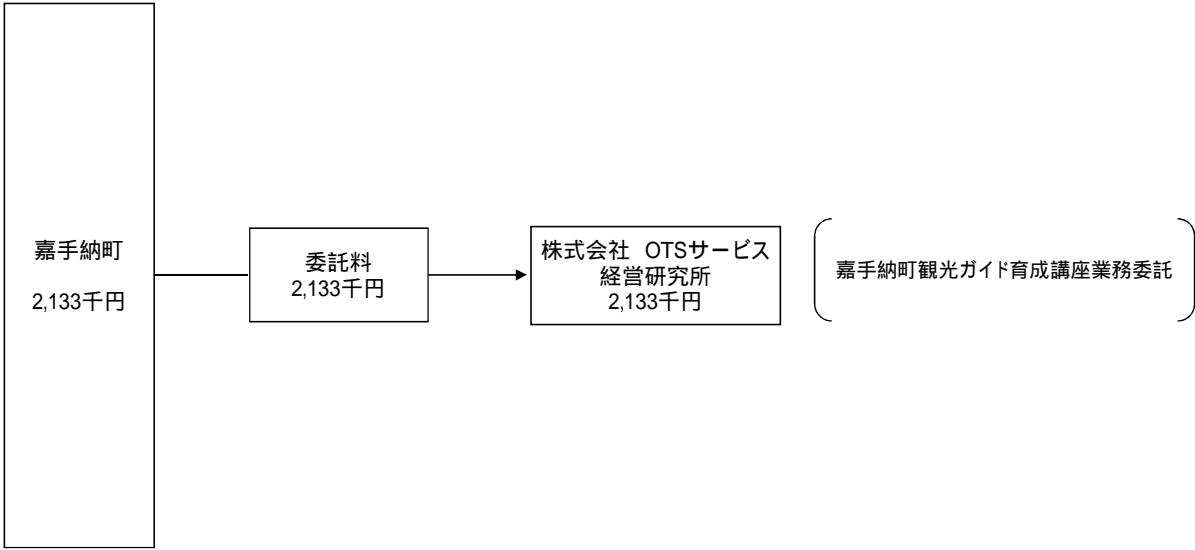
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>嘉手納町には、道の駅かでなを中心として、年間約50万人の観光客が訪れているが、資源間のつながりが弱いため、道の駅かでな以外のスポットへの回遊が弱く、通過型の観光となってしまっている。</p> <p>このことから、本町での滞在時間を増やし、観光資源間の回遊を促進するため、本町の観光の魅力をPRできる人材を育成することを目的として事業に取り組んだ。</p> <p>ガイド育成については、観光に関する知識の習得や実地研修による技術の習得を図り、取り組んだが、実践的な経験については得ていないため、実際に観光ガイドとしての活動を実践するためにはサポートが必要である。</p> <p>認定された観光ガイドが実際に活動を行うまでに準備等により時間を要するため学んだ知識、技術を維持できるよう講座修了後も復習し、知識、技術の定着化を図る必要がある。</p>	<p>育成した観光ガイドとしての活動を実施していくためにはガイド全体の運営面のサポートや環境整備、各ガイドの活動を支援する必要がある。</p> <p>講座で学んだ知識や技術の定着化、維持については実際に観光ガイドの活動を実践する過程でガイドが主体的に学んだ知識、技術を活用することで、その維持も図られると考える。</p>

今後の取り組み方針

平成27年度に一括交付金で実施する「嘉手納町観光客受入体制整備事業」においては、専門業者のノウハウや知識等を活用して、育成した観光ガイドが主体的にガイドを実践できるよう活動面でのサポートを行うこと、活動拠点を整備すること、観光ガイドの組織運営面での支援も行うことで、育成した観光ガイドを活用し、実際に観光客を受け入れ、ガイドすることで本町の観光受入体制の強化に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,133	2,133	1,706	427	0



資金の 用途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は随意契約により決定したが、公募プロポーザルで選定しており、妥当であったと考えている。 予算規模については3社から見積もりを徴収し、比較検証したため適正な規模と考える。 費目・用途については額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であると判断した。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	嘉手納町						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	嘉手納野球場機能拡充事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成26～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 -1-(1)	
事業内容	嘉手納町内外に周知されたプロ野球チームのキャンプ地である嘉手納野球場のスタンド・ベンチ及び防球ネット等を改修し、施設整備を行い観光資源の創出と拡充を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	8,565				
		(b)予算現額	8,565				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	8,565				
	B.執行済額		8,208				
	うち交付金充当額		6,566				
	次年度繰越額		-				
	執行率(%) (B/A)		95.8%				
予算の状況の説明		不用額が357千円発生しているが、本業務の委託費の入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	諸条件の収集整理	目標	(諸条件の収集整理)	()	()	()	
		実績	諸条件の収集整理の実施				
	事例調査	目標	(事例調査)	()	()	()	
		実績	事例調査の実施				
	基本方針の設定	目標	(基本方針の設定)	()	()	()	
		実績	基本方針の設定				
	達成状況説明	諸条件の収集整理については、野球場の概要や基礎情報を整理することにより、当該野球場の現況や利用状況の把握を行った。 事例調査については、野球場の利用団体や県内他野球場の事例視察及びヒアリングを実施することにより、利用者のニーズや施設整備に求められる機能を把握を行った。 基本方針の設定については、野球場の機能拡充について基本方針を設定した。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度
機能拡充基本構想策定		目標	()	(基本構想策定)	()	()	()
		実績		基本構想策定			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明		野球場の諸条件の収集整理、利用団体や県内他野球場の事例調査、ヒアリングを実施することにより、当該野球場の現況や利用者ニーズ、施設整備に求められる機能を把握し、当該施設整備の基本方針を設定し、基本構想を策定した。 今後は、策定した基本構想の結果に基づいて、機能拡充に向けた基本設計を行う。					

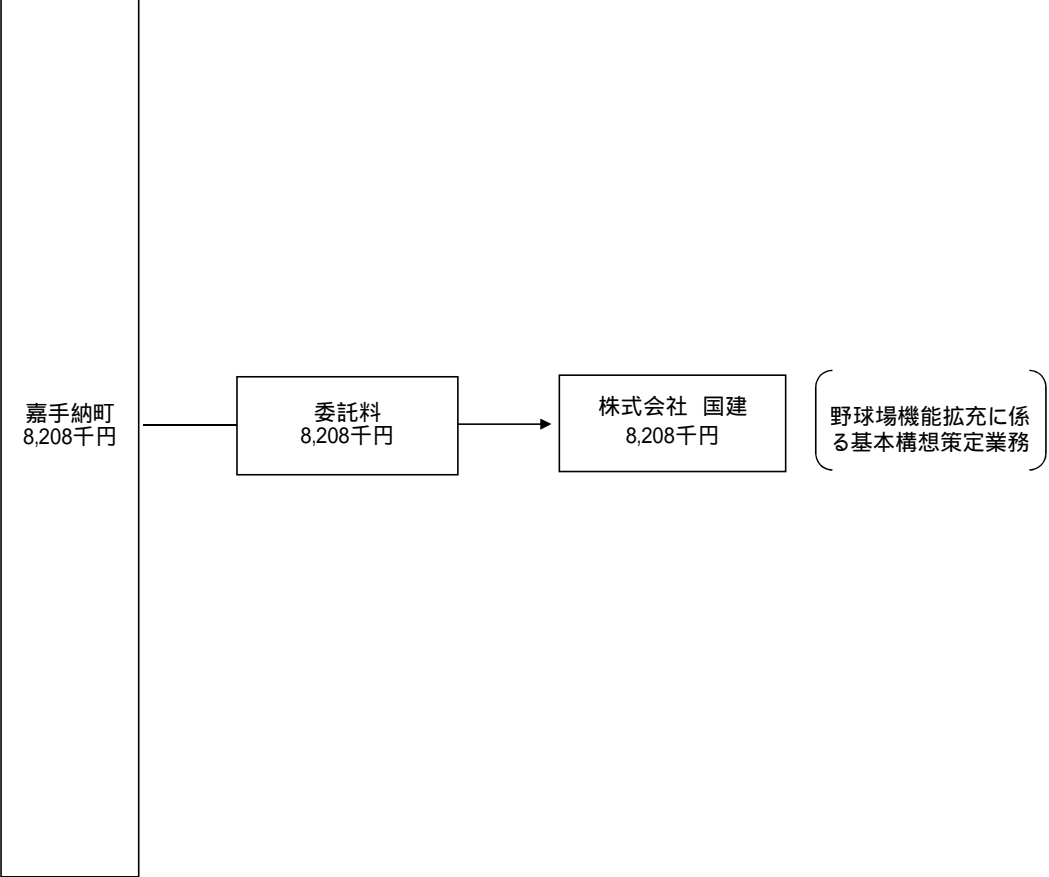
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>硬式野球で試合ができるようにするため、野球場の両翼を拡張し、防球ネット、スタンド、ベンチ等の改修に向けた、当該野球場の施設整備の基本方針を設定し、基本構想を策定した。</p> <p>野球場の両翼が短いため、プロ野球キャンプ時に試合ができない、外野手の練習やフリーバッティングが十分にできない、ファウルボールが防球ネットを超える場合がある。</p> <p>バックスクリーンは老朽化し、表示は手動式であり、ボールカウント表示を(SBO)から(BSO)へ変更する必要がある。</p> <p>スタンドに屋根がないため、熱中症等の対策が必要である。また、野球場の諸室が少なく、グラウンド整備道具用の倉庫等が小さいなどの課題があるため、これらの対応策が必要である。</p>	<p>野球場の両翼を拡張し、ファウルボール対策を施すことにより、硬式野球で試合ができる野球場の整備、バックスクリーンや屋根付きスタンドの整備、更衣室や選手用ロッカー、会議室などの諸室やグラウンド整備道具用倉庫、黒土等の保管庫の拡充を図っていく必要がある。</p>

今後の取り組み方針

野球場機能拡充基本構想を踏まえた上で、硬式野球で試合ができる野球場の整備、バックスクリーンや屋根付きスタンドの整備、更衣室や選手用ロッカー、会議室などの諸室やグラウンド整備道具用倉庫、黒土等の保管庫の拡充を図るため、平成27年度に基本設計、平成28年度に実施設計を行い、平成29年度から逐次整備工事を実施する計画である。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
8,208	8,208	6,566	1,642	0



資金の流 れ、費 目 の 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者については、指名競争入札で実績等を考慮し選定しており、妥当であったと考えている。 予算規模については、不用額が事業費の5%以内であり適正な規模であった。 費目・用途については、野球場機能拡充基本構想業務を実施する上で、事業目的に沿った支出であり適正であると考え。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	嘉手納町
------	------

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-	兼久海浜公園リニューアル基本構想策定事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ
担当部課名	都市建設課	事業実施(予定)年度 平成26～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 -1-(1)

事業内容
公園施設全体の機能強化を図ることにより、観光振興に資する施設として整備を図る。その為、公園全体の整備方針の見直しを行うことにより、これまでの施設利用方法と利用者層に加え、プロスポーツ等の観戦客や公園を利用する観光客等の入域数の増加を図る。本事業の整備の影響が町への入域客数の増加に起因する地域活性化に連続することで、魅力的な嘉手納町の形成を果たす。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	10,044				
	(b)予算現額	10,044				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)	10,044				
	B.執行済額	8,856				
	うち交付金充当額	7,084				
	次年度繰越額	-				
	執行率(%) (B/A)	88.2%				
予算の状況の説明	事業計画通りに執行した。当初予算額では10,044千円であったが、不用額1,188千円は入札残によるものである。					

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
現況把握	目標	(現況把握)	()	()	()
	実績	現地調査、上位計画の整理等による現況把握の実施			
町民意向調査	目標	(調査の実施)	()	()	()
	実績	調査の実施			
施設整備方針の策定	目標	(施設整備方針の検討)	()	()	()
	実績	意向調査分析・庁内検討委員会審議による施設整備方針の策定			
達成状況説明	兼久海浜公園のリニューアルに向け、現地調査を実施した。また、町民を対象とした利用ニーズ調査を行い872件を回収した。その結果、公園の問題・課題を把握することができ、今後の公園再整備の方向性を検討した。これらの内容を取りまとめ、整備案を2案作成し、庁内検討委員会での審議を経て基本構想を策定した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
			()	()	()	()	
	兼久海浜公園リニューアル基本構想策定	目標	()	(基本構想の策定)	()	()	()
		実績		基本構想の策定			
	目標	()	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	兼久海浜公園リニューアル整備基本構想を策定することで、公園リニューアルへの基本となる方針を決定した。本業務では現況把握、住民意向調査により、現況、ニーズの把握を行い2案の整備案を盛り込んだ構想を策定した。平成27年度は、今回策定した基本構想を基に、基本計画の策定を行う。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>本事業は兼久海浜公園施設全体の機能強化を図ることにより、観光振興に資する施設として整備を図るため行うものである。</p> <p>26年度は基本構想を策定する為、現況把握、住民意向調査を行い公園整備の基本的な方針を決定した。</p> <p>兼久海浜公園の魅力をもっと高めるために解決すべき外部要因として次のことがあげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道及びバス停からの案内がわかり難い。 ・本公園で既に開催されている「野国総官まつり」や「うたの日コンサート」による集客・誘客効果を勘案した整備方策を検討する必要がある。 ・公園利用者層の拡大をはかるために周辺施設との連携を検討する必要がある。 ・海浜公園であり海に近接するが海とのアクセス性が悪く、親水性(海との関わり・ふれあい)が弱い。 <p>次年度の基本計画ではこの問題についても、議論し対応策を検討する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス路を明確にし、わかりやすい誘導サイン設置等の検討をする必要がある。 ・イベントによる誘客集客に寄与する為、整備方策について関係団体及び町関係課からのヒアリング等を行う必要がある。 ・隣接する商業施設や周辺施設との連携を検討するため、関係者からのヒアリングを行い周辺施設利用者と公園利用者の相互連携を図る必要がある。 ・海との関わりを強めるため、海岸の管理者である沖縄県と海浜部分の整備について、十分な協議・調整を行い改善策を検討する必要がある。

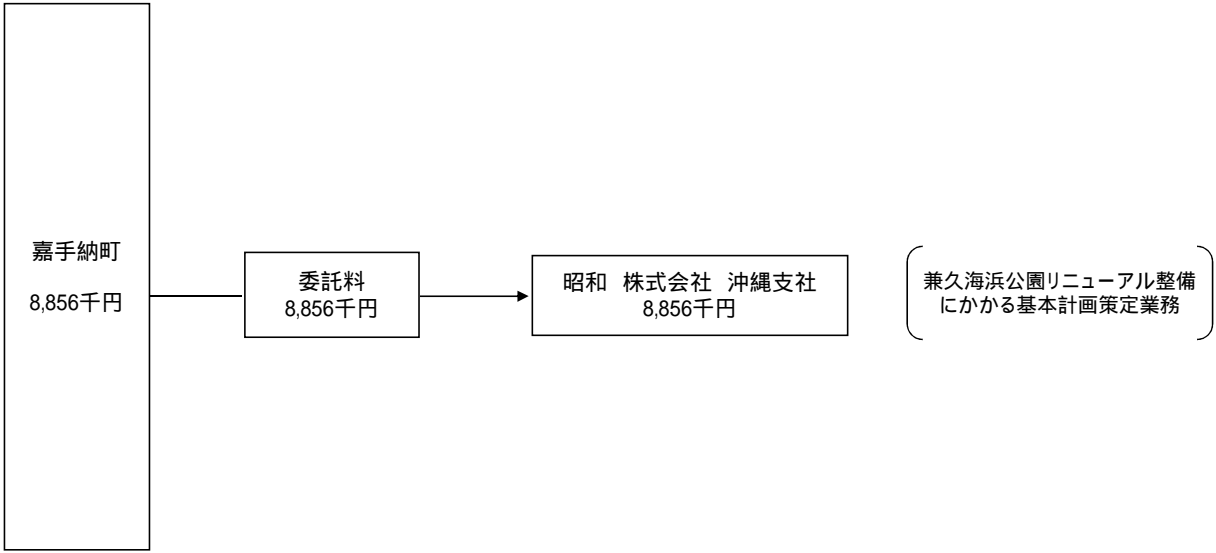
今後の取り組み方針

・平成27年度は、基本構想で抽出された利用者ニーズ及び観光の視点も考慮した基本計画を策定するため、ワークショップ・関係者ヒアリング・パブリックコメントを行う。また、庁内の関係各課の意見を反映させるために庁内検討委員会に諮る。本公園の基本計画の策定にあたり、多くの意見が反映された計画を策定する。

・平成28年度、平成29年度でそれぞれ基本設計及び実施設計を行い、平成30年より整備工事を逐次実施する計画である。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,856	8,856	7,084	1,772	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・支出先の選定方法に関し、指名競争入札により決定した。県内において、公園基本構想業務の実績を有する業者を指名し入札に付した。その結果、同等実力の業者間で価格競争が促され、事業遂行能力及び経済性をも勘案した内容での発注ができ妥当である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模については3社から見積もりを徴収し比較検証したうえで算定していることから、適正な規模であると考えられる。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目及び使途について兼久海浜公園リニューアル基本構想業務を実施するうえで、事業目的に沿った支出であり適正であると考えられる。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	かでな文化センター機能向上事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ	
担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成24～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 -1-(1)	
事業内容	観光振興促進を図るため、音楽や芸能、講演会など様々な催事に対応できるよう、かでな文化センター施設の機能向上を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	274,754	12,853	-	24,106	
		(b)予算現額	273,840	89,394	-	29,074	
		(c)増減額(b-a)	914	76,541	-	4,968	
		(d)繰越額	-	-	52,140	0	
	A.計(b+d)		273,840	89,394	52,140	29,074	
	B.執行済額		273,840	37,254	44,991	27,628	
	うち交付金充当額		218,570	29,803	32,340	22,102	
	次年度繰越額		-	52,140	-	-	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	41.7%	86.3%	95.0%	
予算の状況の説明		・舞台設備の操作の電動化に係る基盤整備に必要な工事費4,968千円を増額した。 ・入札による減額及び工期期間内に建築確認の申請許可が取れないため、申請許可に係る手数料を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	かでな文化センターバリアフリー化実施設計策定	目標	(実施設計策定)	()	()	()	
		実績	実施設計策定				
	かでな文化センター舞台機構制御盤及び操作盤取換工事	目標	(舞台機構制御盤及び操作盤取換工事実施)	()	()	()	
実績		舞台機構制御盤工事					
達成状況説明	・基本設計をふまえ、既存施設の構造を考慮しつつ、発注者と受注者で協議を行いながらバリアフリー工事の実施設計を行った。 ・電流制限器をヒューズ型からブレーカー型に変更するなど、舞台機構制御盤の機器を変更した。 ・操作盤取替については、取替工事に伴う吊物等の機器、性能についての精査に時間を要し、年度内での施工が困難となったため次年度以降も継続し検討していく。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	かでな文化センターバリアフリー化実施設計策定完了	目標	()	(実施設計策定)	()	()	()
		実績		策定済み			
	舞台設備操作の電動化の基盤を整備する	目標	()	(基盤を整備する)	()	()	()
		実績		実施済み			
進捗状況説明	かでな文化センターバリアフリー化実施設計を完了した。今後は、この実施設計に基づき、施設の機能向上に向けた施設のバリアフリー工事を行う。 舞台機構制御盤を機能向上することにより、再起動時間の短縮や故障箇所の確認や早期対応が可能となった。						

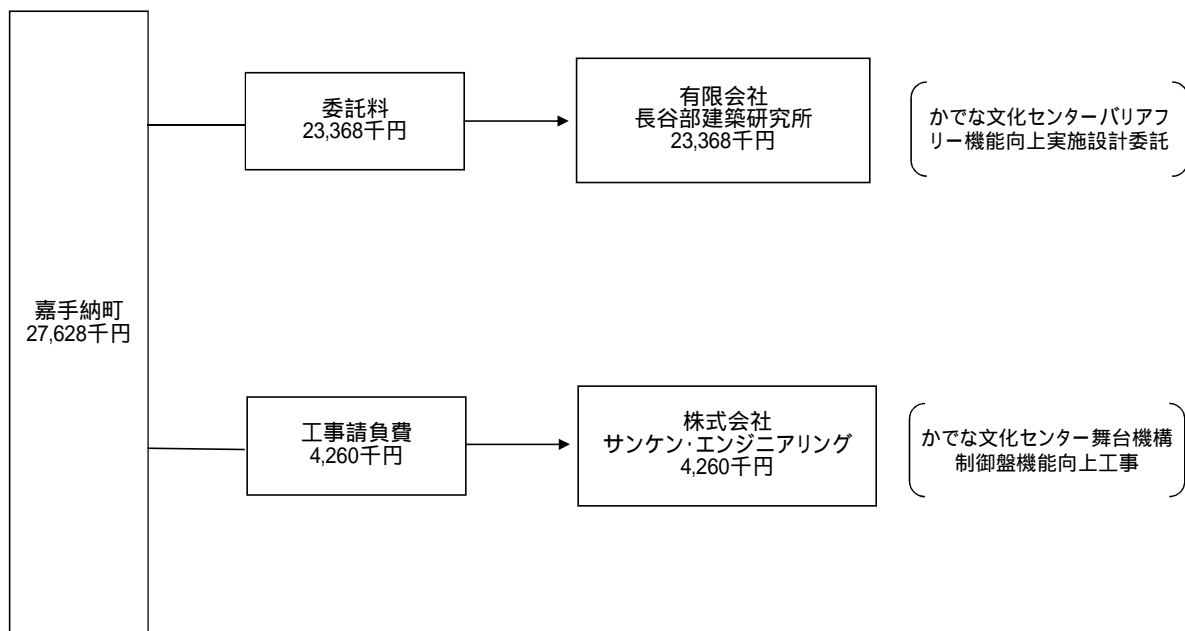
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>施設内の移動は、階段を利用しなければならず、車いす利用者、高齢者等には、使用しづらい状況があったが、利用者にとって使用しやすい施設にするため、施設のバリアフリー化にむけて工事の実施設計を行った。</p> <p>また、舞台機構については、再起動や故障箇所の確認に時間を要していたが、制御盤を機能向上することによって、これらの早期対応が可能になった。今後は電動化を含む舞台設備の機能向上を進める必要がある。</p>	<p>工事を着工できるよう実施設計を行い図面等を作成したので、今後は施設の利用状況を考慮し、工事を施工する。</p> <p>また、舞台設備の電動操作の基盤を整備したので、手動操作している箇所の電動化等の機能向上を検討する。</p>

今後の取り組み方針

- ・平成27年度にバリアフリー工事をを行い、施設内の移動を円滑にする。
- ・平成27年度舞台設備の電動化、その他設備の機能向上を検討し、利便性の向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
27,628	27,628	22,102	5,526	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>・工事請負業者、委託事業者については、指名競争入札で実績等を考慮し選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>・不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。</p> <p>・費目、使途については、かでな文化センターバリアフリー機能向上基本設計業務を実施する上で、事業目的に沿った支出と判断するため適正であると考えている。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	嘉手納町
------	------

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-	観光史跡等説明板整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ
担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度 平成24～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 -1-(1)

事業内容	魅力ある観光地づくりを目指し、地域資源、文化資源を活用した観光振興を図るため、町内に点在する史跡、旧跡等への多言語表記した史跡等説明板を設置する。			
------	---	--	--	--

実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()
------	------	----	----	----	---------

		24年度	24年度繰越	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	13,240	0	3,000	3,451	
	(b)予算現額	13,020	0	2,835	3,758	
	(c)増減額(b-a)	220	0	165	307	
	(d)繰越額	-	13,020	-	-	
	A.計(b+d)	13,020	13,020	2,835	3,758	
	B.執行済額	0	13,020	2,835	3,758	
	うち交付金充当額	0	9,930	2,268	3,006	
	次年度繰越額	13,020	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	307千円の増額については、地権者との調整により設置予定場所の変更があったため、実施設計の結果、工事費が当初予算額より増加したことによるものである。					

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
		町内の観光史跡等に説明板を設置	目標 (9箇所)	(2箇所)	(2箇所)
	実績	9箇所	2箇所	2箇所	
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	目標としていた設置箇所2箇所(字屋良のシーガー、字屋良のウブガー)に説明板の設置を完了することができたことにより、国内外観光客への情報発信を強化し、観光客誘客促進を図るとともに、説明板の設置箇所についてHPで公開を行った。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
		史跡等説明板の設置により、町内外に観光に資する情報を発信することができる。整備率59%	目標 ()	(59%)	()	()	()
			実績	59%			
			目標	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	多言語化した説明板を目標としていた全体予定数(22箇所)の内、H24(9箇所)、H25(2箇所)、H26(箇所)に説明板を設置を完了することができ、計13箇所整備済みで整備率は59%となった。説明板の設置により、国内外観光客へ町内の観光史跡についての情報発信を強化を行い、説明板の設置2箇所についてHPでの公開することにより観光客誘客促進を図った。今後は新たな説明板を設置するとともに、さらなる誘客促進のため観光客へのアプローチ強化を図る。						

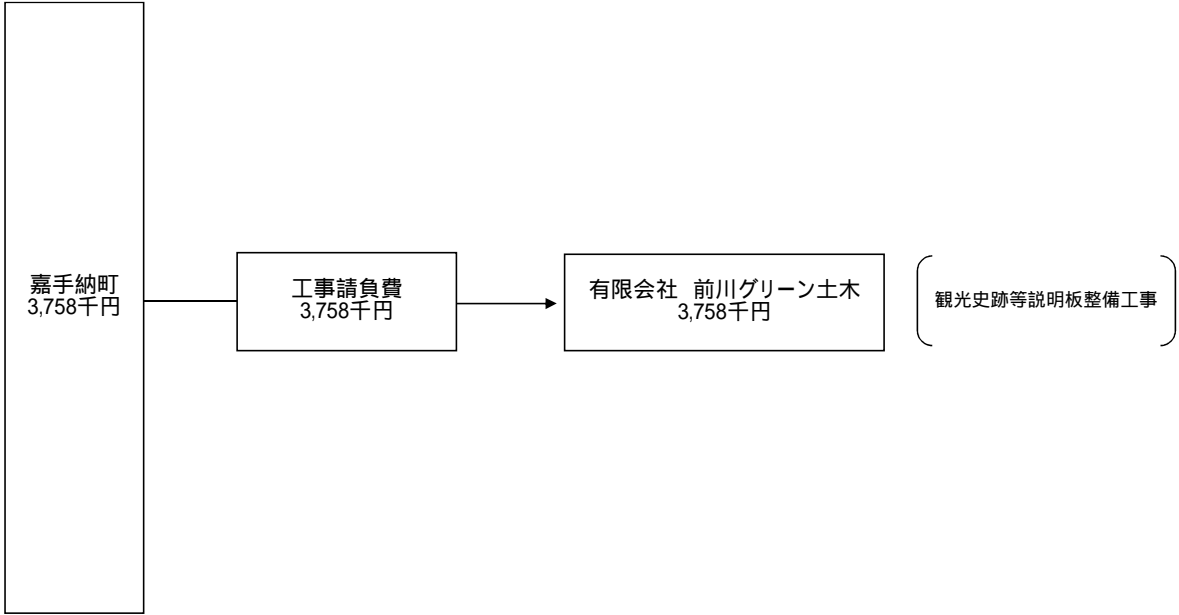
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本事業は多言語表記した史跡等説明板を設置することにより、国内外観光客へ町内の観光史跡についての情報発信の強化を行うことを目的とする。 平成26年度においては2箇所(字屋良のシーカー、字屋良のウプガー)に説明板の設置を完了することができた。 推進上の問題点として、地権者から承諾を得ることや設置場所について調整に時間を要した。</p>	<p>説明板の設置に関し、地権者等、地域の方々から設置の承諾を得られるよう意見交換を密に行う必要がある。 説明板の設置箇所をHPで情報発信するだけでなく、さらなる誘客促進のため観光客へアプローチの強化を強化を行う必要がある。</p>

今後の取り組み方針

町指定文化財以外の史跡についても地権者や郷友会等の地域の方々との意見交換を密に行い、平成27年度も継続して設置箇所を増やしていく。
説明板の設置場所を町内外に周知すると共に、他の観光施設で案内パンフレットの配布等、他事業との連携も視野に観光客への情報発信を強化していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
3,758	3,758	3,006	752	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	工事請負業者は入札により選定しており、妥当であったと考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模は3社以上から見積もりを徴収し、比較検証したため適正な規模であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	町内の指定文化財及び名所旧跡への説明板を設置しており、必要な工事請負費のみの支出であるため妥当であったと考える。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	嘉手納町
------	------

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-	学習支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア
担当部課名	教育委員会 教育指導課	事業実施(予定)年度 平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 -3-(1)

事業内容
算数、数学、国語中心に、授業ではチームティーチング、習熟度別授業を行い、また、長期休業における個別指導及び放課後の補習授業を行う学習支援員を配置する。特に授業内容が定着していない児童生徒への対応を行い、漢字検定等の個別指導も行う。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額	2,631	10,544	10,552		
	(b)予算現額	2,631	10,416	10,552		
	(c)増減額(b-a)	0	128	0		
	(d)繰越額	-	-	-		
	A.計(b+d)	2,631	10,416	10,552		
	B.執行済額	2,631	10,416	10,277		
	うち交付金充当額	2,000	8,000	8,221		
	次年度繰越額	-	-	-		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	97.4%		
	予算の状況の説明	学習支援員を本町小学校に3名、中学校に1名を配置し、報酬と社会保険料をそれぞれ12ヶ月分執行している。不用額が275千円出ているが欠勤による報酬減額によるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
学習支援員配置数 小学校:3人、中学校:1人	目標	(小学校3人 中学校1人)	(小学校3人 中学校1人)	(小学校3人 中学校1人)	()
	実績	小学校3人 中学校1人	小学校3人 中学校1人	小学校3人 中学校1人	
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	4月～3月まで屋良小学校1名、嘉手納小学校2名、嘉手納中学校1名の支援員を配置した。小学校においては、配置学年において、単元テスト80%以上の数値目標が概ね達成され、県到達度調査においても、県平均を上回っている。支援員による少人数指導での対応が、効果的な学習指導につながっている。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
			()	()	()	()	
	県到達度調査における国語算数正回答率を各学年とも県平均以上とする	目標	()	(県平均以上)	(県平均以上)	(県平均以上)	()
		実績		小3 × 小5 中2 ×	小3 小5 中2 ×	小3 小5 中2	
	目標	()	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	小学校においては、単元テストの数値目標が概ね達成し、県到達度調査では県平均を上回っているため、継続して指導・授業支援を推進していく。中学校での実績が となっているのは、国語においては、県平均を上回っているが、数学では県平均を下回っているためである。 算数・数学の県平均がそれぞれ3年生85.3%、5年生58.9%、中学2年生40.6%で、各学年の平均が3年生88.6%、5年生61.7%、中学2年生37.3%という結果になっている。						

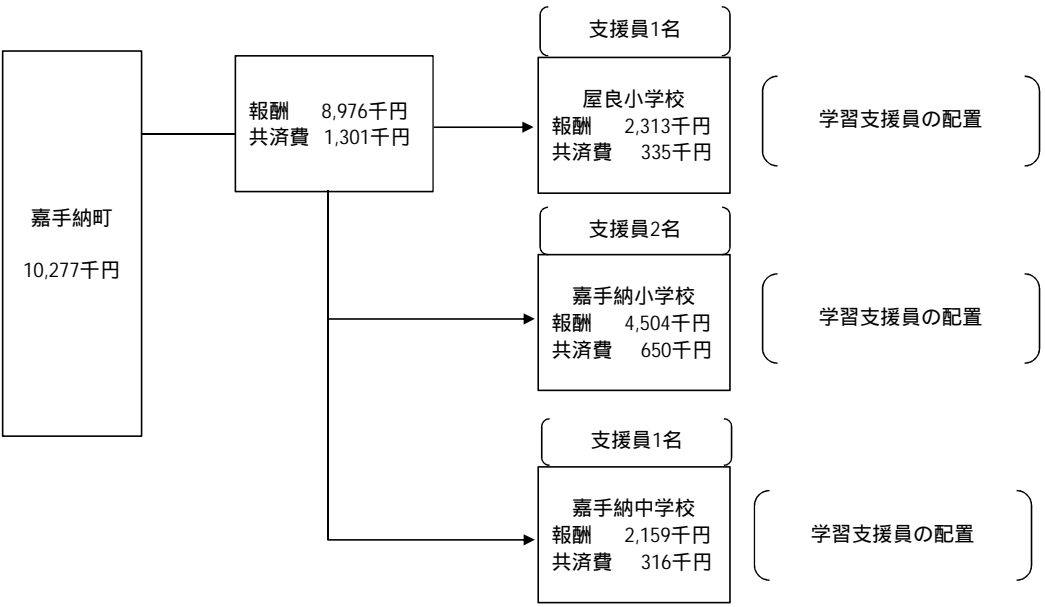
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>児童生徒の算数・数学の基礎学力の底上げを図るために、学習支援員を活用したきめ細かい指導を行う。</p> <p>学力授業の進め方において、TT指導を実施したり、場合に応じて少人数指導を行ったりと、状況に応じた進め方を行った。また、自力解決の場面においては、自分の力で問題を解くことが苦手な児童に対して、ヒントカードを提示したりして、課題解決への手助けを行ったが、それだけでは問題を解くことができない児童もいるため、対策が必要である。</p>	<p>平成26年度は、学習支援員を活用した少人数指導を実施したが、ヒントカードだけでは理解できない子もいるため、より効果的な指導ができるような、個別指導の形態等を工夫していく必要がある。そのためにも、児童生徒の担任・教科担任との児童生徒の情報交換を行い、指導についての確認や指導状況、指導後の児童生徒の変容について把握し、個別の指導を要する児童に対して、どのように支援していくのか、どのような課題を提示していくのかを確認し、きめ細かな指導につなげていく。指導体制の構築として、毎日の補習指導の実施や長期休業中の補習指導がどうであったかを検証する。具体的には、職員へのアンケートとともに児童生徒へのアンケート調査で実施していく。</p>

今後の取り組み方針

- 平成26年の反省から支援員の活用体制作りを構築する
- ・担任と学習支援員との連絡会を週時程の中に位置づける
 - ・諸調査の結果から指導を重点的に行う必要のある学習内容を洗い出し、指導の計画を立てる
 - ・系統的指導を心がけ、学年段階でしっかりと押さえておかなければならない内容を整理し、指導を充実させる
 - ・授業、補習指導での役割を明確にして、指導に当たる
 - ・アンケートを実施し、課題解決に生かす

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
10,277	10,277	8,221	2,056	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。</p> <p>費目・使途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	嘉手納町
------	------

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-	英語力強化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア
担当部課名	教育委員会 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	国際社会、情報社会に対応した教育の推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	-3-(1)

事業内容
 教育課程特例校としての特典を生かし、英語力を向上させるため、ネイティブスピーカーの講師の活用で、日常的に英語に親しむ環境をつくり、英会話を中心とした授業を展開する。また、英語力向上のために英語検定にむけた学習講座を実施し、目標級取得の支援を行うため中学校教員免許を所持した人材を活用する。

実施方法

直接実施	委託	補助	負担	その他 ()
------	----	----	----	---------

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	2,982	13,741	16,014		
	(b)予算現額	2,982	12,775	16,014		
	(c)増減額(b-a)	0	966	0		
	(d)繰越額	-	-	-		
	A.計(b+d)	2,982	12,775	16,014		
	B.執行済額	2,982	12,775	15,720		
	うち交付金充当額	2,300	9,665	12,576		
	次年度繰越額	-	-	-		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	98.2%		
予算の状況の説明	英会話指導員及び英語指導員を本町小学校に3名、中学校に3名を配置し、報酬と社会保険料をそれぞれ12ヶ月分執行している。不用額が294千円出ているが、欠勤による報酬減額によるものである。					

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
英会話指導員配置数 小学校:3人、中学校:2人	目標	(小学校3人 中学校2人)	(小学校3人 中学校2人)	(小学校3人 中学校2人)	()
	実績	小学校3人 中学校2人	小学校3人 中学校2人	小学校3人 中学校2人	
英語指導員配置数 中学校:1人	目標	()	(中学校1人)	(中学校1人)	()
	実績		中学校1人	中学校1人	
達成状況説明	4月から3月において、英会話指導員を小学校に3名、中学校へ2名、英語指導員を中学校に1名配置した。小学校においては、英語による会話(ターゲットフレーズ)を中心としてゲームや歌を楽しみながら、英会話に慣れ、使うことの楽しさを習得することができた。中学校においては、英会話を通して実践的な英語力の向上につなげ、英検受験者・合格者が増加している。また、町主催の英語スピーチコンテストに向けて、指導員の発音指導やジェスチャーを交えて発表する手法を習得している。加えて、中学校の県到達度調査において、英語においては県平均を上回ることができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
		英語検定3級以上の合格者数 50人	()	(50人)	(50人)	(50人)
			35人	52人	53人	
	目標	()	()	()	()	()
進捗状況説明	小学校においては、英会話に慣れ親しむための授業が定着しており、担任と支援員の役割分担を明確にした授業構成が構築されている。今後は、小学校段階でのターゲットフレーズ(重点的に指導していく会話フレーズ)を重点的に身に付けさせるようにする。中学校においては、英検受験を推奨し、実践的な英会話力の向上を図る。					

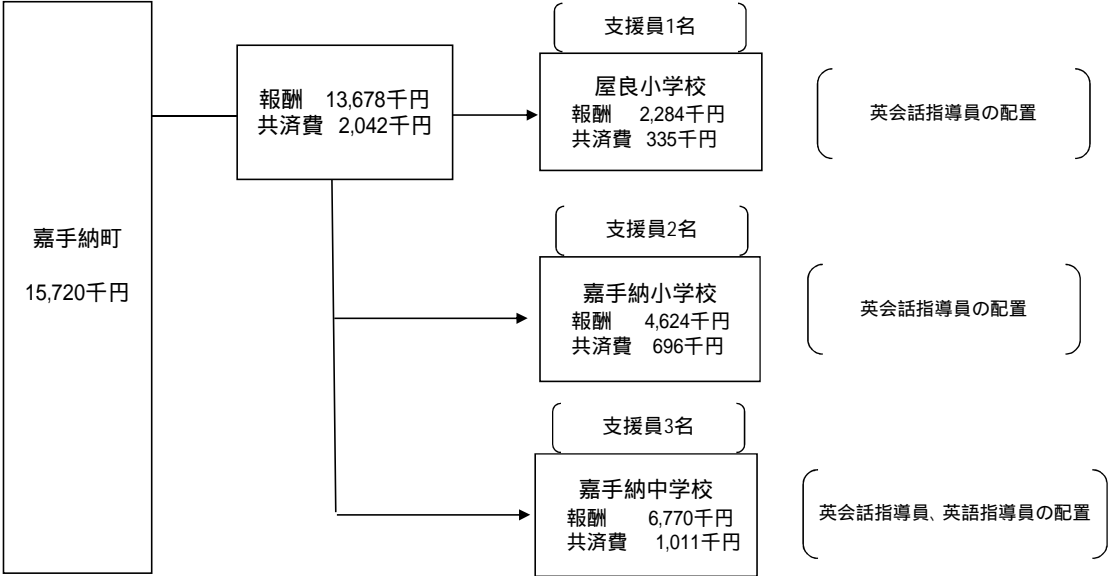
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	児童生徒が英語に慣れ親しむ活動として支援員を配置し学習の補助を行った。 平成26年度は、英語科・英会話科の授業において、支援員のネイティブな発音を生かして聞き取る力や日本語と英語の発音の違いを聞き分けて、より高度な発音、フレーズの習得をめざした。 以上の事業を実施する上で、指標となる英検受験を設定しているが、生徒の受験意欲が高まらない。	英会話学習において、計画・実践・チェック・評価のシステムを構築し、検証を行っていく。 ・ターゲットフレーズを設定し、生活で使用する会話を中心とした系統的な内容にする ・実践的な英会話指導の技術力向上のため検証授業を実施する ・英語担当教諭・指導員・支援員の研修を充実させ、指導力を高める ・児童生徒への英語アンケートを実施し、意識の変容を検証する ・英検受験意欲の向上を図るため、英会話指導員、英語指導員と連携して声かけを行う

今後の取り組み方針

平成27年度事業においては、英会話学習の充実に向けて、以下の項目に重点的に取り組む。
 ・各学校において英会話年間指導計画の作成と英語授業の公開と授業研究会の実施
 ・ターゲットフレーズの見直しと重点指導項目の意識化
 ・研修を通して、教材開発及び指導力向上を図る

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金	交付金	
15,720	15,720	12,576	3,144	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。 予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。 費目・用途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	嘉手納町
------	------

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-	ICT活用事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	国際社会、情報社会に対応した教育の推進	
事業内容	情報活用能力の育成や学校における情報化を推進するため、パソコン指導員を配置し、教師の授業の補佐・支援を行う。また、授業でのPC活用を推進するためフラッシュ教材を活用した授業支援も行う。				
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	1,773	7,891	7,034		
	(b)予算現額	1,773	7,891	7,034		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	-	-	-		
	A.計(b+d)	1,773	7,891	7,034		
	B.執行済額	1,773	7,891	6,908		
	うち交付金充当額	1,300	6,220	5,526		
	次年度繰越額	-	-	-		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	98.2%		
予算の状況の説明	パソコン指導員を本町小学校に2名、中学校に1名を配置し、報酬と社会保険料をそれぞれ12ヶ月分執行している。不用額が126千円出ているが、欠勤による報酬減額によるものである。					

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
パソコン指導員配置数 小学校2人、中学校1人	目標	(小学校2人 中学校1人)	(小学校2人 中学校1人)	(小学校2人 中学校1人)	()
	実績	小学校2人 中学校1人	小学校2人 中学校1人	小学校2人 中学校1人	
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	パソコン指導員を配置し、PC教室の環境づくりや関連機器の準備を行い、担任がスムーズにパソコンを活用した授業が展開できる。また、電子黒板の活用においても、指導員がアイデアの提供を行い、わかる授業・視覚に訴える授業の展開が図れている。児童生徒の機器操作においても、指導の補佐に当たること、スキルアップにつながっている。同時に、教職員のPC操作サポートを行い、校務の効率化につながっている。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
			目標	()	()	()	()
(小学校)キーボード操作能力検定目標級の達成 3学年23級(80%以上) 4学年17級(60%以上) 5学年8級(40%以上) 6学年初級(20%以上) (中学校)パソコン検定目標級の達成 1・2年5～4級、3年3級	目標	()	()	()	()	()	
	実績		[小学校] 3学年31% 4学年35% 5学年4% 6学年5% [中学校] 1・2学年 受検18名 内5級以上 合格13名(72%) 3学年 受検9名 内3級以上 合格7名(78%)	[小学校] 3学年83% 4学年32% 5学年7% 6学年3% [中学校] 1・2学年 受検17名 内5級以上 合格12名(70.5%) 3学年 受検15名 内3級以上 合格12名(80%)			

進捗状況説明	小学校においては、PCを活用した調べ学習やまとめる活動に費やす時間が多くなって、PCスキルアップに費やす時間が少なくなり、授業の効率化が図られている。今後は、電子黒板を活用した授業スタイルの確立とわかりやすい説明をどのようにしていくかという開発を行っていく必要がある。中学校においても授業でPCを効果的活用し、わかりやすい説明のために活用していく。さらに、パソコン検定者を募り、より多くの合格者を出せるようにする。 小学校の3年生以外は目標達成ができていない状況である。この状況は、パソコン指導員の目標設定期待値と児童生徒の実態との差が大きいため、目標設定を見直す必要がある。
--------	---

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>わかる授業実現のために、ICT支援員を配置し、担任や教科担任の授業補佐、授業支援を行った。授業支援により、児童生徒の情報活用能力の育成、教材の提示方法の工夫により理解度が上がったが、以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT支援員配置の効果はどうか ・児童生徒の目標設定は妥当であるか ・事業の効果を上げるための情報収集や周知 ・機器整備計画と連動した支援員の効果的な活用 	<p>ICT支援員が担任や教科担任への授業補佐、授業支援を行うことで教育の情報化(児童生徒の情報活用能力の育成、学習指導におけるICT活用、校務の効率化)を推進しているが、以下の点で課題が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、教職員へのアンケートの実施 ・児童生徒の目標設定の見直し・改善 ・事業の効果を上げるため、近隣市町村の情報収集 ・機器整備計画と連動した支援員の効果的な活用計画の策定・実施 <p>以上の点を検証し、改善につなげる。</p>

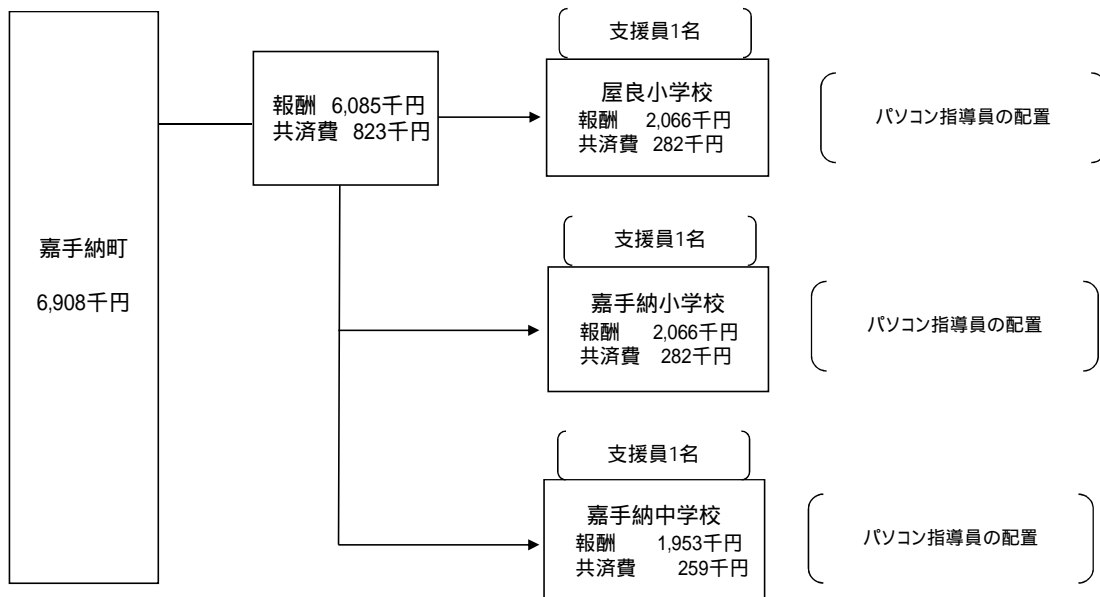
今後の取り組み方針

平成27年度の事業においては、以下の点に重点的に取り組む。

- ・効果について、PDCAサイクルによる視点で検証を行い、効果的な活用について探っていく
- ・小学校においては、引き続き操作能力を高めるキーボード操作検定サイト(キーボー島)の各学年目標級を設定し、達成に向けた取り組みを行う
- ・中学校においては、パソコン検定の目標級を設定し、合格率を向上させる取り組みを図る
- ・定期的に情報教育担当教諭・ICT支援員の連絡会を開催し、授業補佐・授業支援状況、キーボード操作検定サイトやパソコン検定の進捗状況を確認して、各学校の取り組みについての情報交換を行う
- ・電子黒板の活用や効果的な授業展開についての研修を連絡会において行う

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,908	6,908	5,526	1,382	0



資金の流 れ、費 用 目 録	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。費目・用途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		嘉手納町					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	不登校対策生徒指導支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	教育委員会 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 -3-(1)	
事業内容	不登校の生徒に対応するため、指導員による家庭訪問を行い、在宅確認及び本人と家族支援を実施することにより生活リズムの正常化を目指す。また、時差登校をする生徒へ相談の実施を行う。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	848	3,094	1,977		
		(b)予算現額	848	2,461	1,977		
		(c)増減額(b-a)	0	633	0		
		(d)繰越額	-	-	-		
	A.計(b+d)		848	2,461	1,977		
	B.執行済額		848	2,461	1,764		
	うち交付金充当額		640	1,940	1,411		
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	89.2%		
予算の状況の説明		不登校対策生徒指導支援員を本町内中学校に1名配置し、報酬と社会保険料をそれぞれ12ヶ月分執行している。目標では2名配置の予定であったが、予算編成時点において2名の人材確保の見通しが立たず、1名分の計上となった。不用額が213千円出ているが、社会保険料の実績による減額である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	生徒指導支援員配置数 中学校2人	目標	(中学校2人)	(中学校2人)	(中学校2人)	()	
		実績	中学校2人	中学校2人	中学校1人		
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	不登校生徒の割合が増えているが、中学校からのニーズも高く、学校の生徒指導体制の下、職員と連携して当該生徒への支援にあたり、登校への意識を持たせている。雇用については人材の確保が1名しかできず、すべてのケースに対応できない部分があった。次年度以降は2名体制にしたい。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	不登校生徒数を全生徒数の3.3%以下にする	目標	()	(3.3%以下)	(3.3%以下)	(3.3%以下)	()
		実績		5.10%	4.00%	3.28%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	生徒の登校時における声かけや教室内外の巡回を継続して行うことにより、生徒とのコミュニケーションを図り、不登校の早期発見・早期対応が期待できる。また、登校支援として、生徒の家庭訪問や巡回指導を行うことで、教師の目の行き届かないところへの支援ができていくが、すべての不登校生徒をカバーしきれっていない。次年度は支援員を2名体制にすることで、支援が必要な生徒に関わる時間を増やし、不登校生徒数をさらに減少させる。平成25年度の不登校生徒21名から平成26年度は17名に減少し、目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>平成26年度は不登校生徒の登校支援のために配置し、家庭訪問や地域巡回指導を行った。生徒指導支援員の対象生徒として、非行、不登校、遊び型不登校に対応している。</p> <p>生徒指導支援員が地域を回り、欠席した生徒の状況を把握し、関係機関へと早急につなぐことにより、ケース会議を持ち問題に対応することができた。課題としては、小学校段階からの家庭支援を必要としている場合もあるため、支援体制の枠を広げていく必要があることである。</p> <p>平成26年度は生徒指導支援員定数2名に対して希望者が1名しかなく、人材確保が難しかったため、1名配置のままであった。</p>	<p>生徒指導体制を確立し、対象生徒への支援計画を策定する。</p> <p>小中学校の連絡会においては、不登校児童生徒の情報を集約し、各学校の支援体制づくりへの関わり方を検討する。</p> <p>また、個別のケース会議で状況把握を行い、今後の支援計画の策定を行う。</p> <p>平成27年度は、募集期間を長くし、人材確保に努めていく。</p>

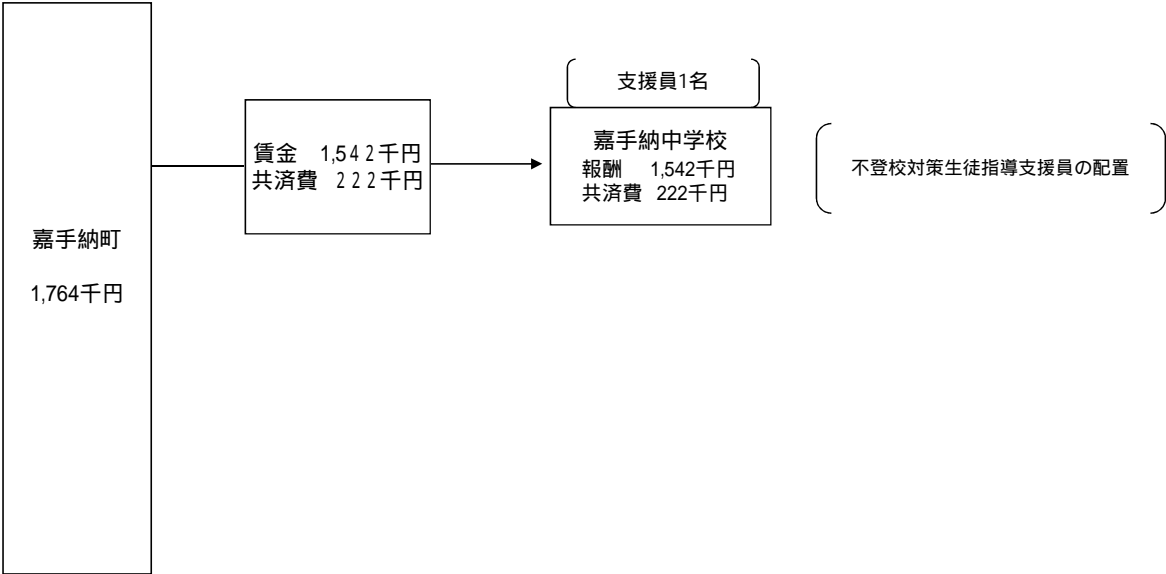
今後の取り組み方針

平成27年度事業は以下の点を重点的に取り組む。

- ・不登校生徒に対し、時間差登校や保健室登校から登校日数を増やし、段階的に教室へ登校できるように対応を進める
- ・不登校生徒の小学校時の状況、前学年時の情報を共有し、各関係機関(町子ども家庭課、町障害福祉課、児童相談所、青少年センター等)へつなげる
- ・心因性の不登校生徒に対してカウンセラーとの連携を行う
- ・不登校生徒、保護者との連絡を取り、つながりを保持するようにする

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
1,764	1,764	1,411	353	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支援員は嘉手納町臨時職員管理規程に基づき採用した。予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。 費目・使途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	スクールカウンセラー活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	教育委員会 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 -3-(1)	
事業内容	青少年センターにスクールカウンセラー(臨床心理士)を配置し、児童生徒と保護者の相談業務を行い、教職員に対しては障害等への対応に関する研修会を実施する。また、適応教室相談員に助言や児童生徒のカウンセリングを通して学校復帰を支援する。						
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他()		
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,592	2,592			
		(b)予算現額	2,556	2,592			
		(c)増減額(b-a)	36	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		2,556	2,592			
	B.執行済額		2,556	2,592			
	うち交付金充当額		2,000	2,073			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		スクールカウンセラーにおいては、本町内青少年センターに1名配置し、予算においては、報酬を12ヶ月分執行している。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	スクールカウンセラー配置数:1人	目標	(1人)	(1人)	()	()	
		実績	1人	1人			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	青少年センターにスクールカウンセラー(臨床心理士)を配置し、児童生徒と保護者の相談業務を行い、学校教職員に対しては、発達障害等への対応に関する研修会を実施した。適応教室の児童生徒においては、適応教室相談員に対する助言や直接のカウンセリングを行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	サポートした児童生徒の学校生活への適応や学校復帰等改善が確認できた人数:3人	目標	()	(10人)	(3人)	()	()
		実績		3人	23人		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・カウンセリングにて心理的教育を行い、正しい知識や情報を心理面への十分な配慮をしながら伝えることで、児童生徒や保護者の行動が変容した。 ・授業中の行動観察や知能検査の実施を元に、具体的な支援方法を模索することができ、支援を実施することで子どもの学習面や行動面で良い変容が見られた。 ・成果目標である「児童生徒の学校生活への適応や学校復帰等改善が確認できた人数」が昨年度と比較し、大幅に改善した。					

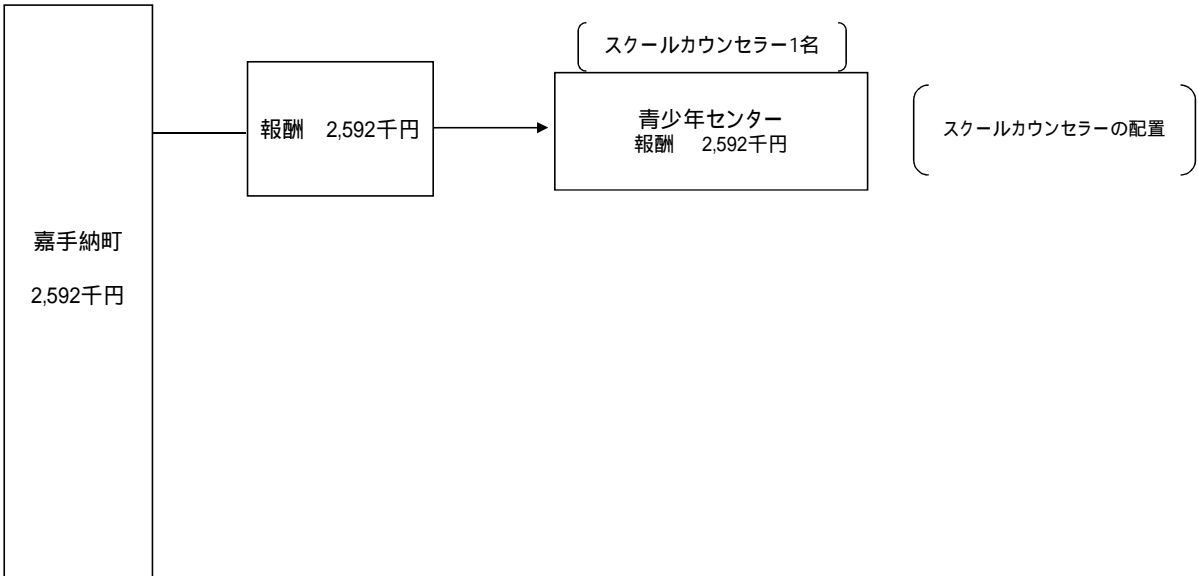
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本町は特に中学校の不登校生が増加傾向にある。また、心的課題を抱えた児童生徒は多い。児童生徒と保護者の相談業務を行い、課題解決に繋げるため、スクールカウンセラーを青少年センターに配置した。</p> <p>平成26年度は授業中の行動観察や知能検査の結果を参考にすることで、それぞれに合った支援を実施することができた。</p> <p>しかし、中学の段階では特に問題化が進んでいる傾向があり、対象生徒との関係が築きにくく、カウンセリング介入が困難を感じる。早期の実態把握と支援的介入が課題である。また、週3日の勤務で町内すべての学校・児童生徒を担当するため、より細かいフォローまでは十分にしきれない部分があった。</p>	<p>・スクールカウンセラーの勤務日数を週3日から週5日に増やすことで、対象児童生徒や学校との相談等の機会が多くなり、問題の早期発見、早期対応がより可能になる。また、緊急な面談要請等にも応じることができる。</p>

今後の取り組み方針

より充実した相談業務等を行うため、平成27年度はスクールカウンセラーの勤務を週3日から週5日に増やす。
 また、教室巡回や授業観察の機会を増やすことで、支援が必要な児童生徒の早期発見に繋げ、問題が深刻化する前に支援を開始できるようにしたい。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金	交付対象外経費	
2,592	2,592	2,073	519	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。 予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。 費目・使途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	秋田交流学習体験事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成26～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 -3-(1)	
事業内容	全国学力・学習状況調査で高い学力を維持している秋田県へ町内の小中学校児童生徒及び教諭を派遣し、派遣先学校の授業に参加することで学習・指導を体験することができ、学力向上に生かしていく。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,443				
		(b)予算現額	3,443				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	3,443				
	B.執行済額		3,077				
	うち交付金充当額		2,461				
	次年度繰越額		-				
	執行率(%) (B/A)		89.4%				
予算の状況の説明		委託料を入札にて執行し、不用額366千円は入札残によるものである。事業は計画どおりすべて執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	秋田県へ町内小中学校児童生徒及び教諭の派遣	目標	(児童生徒及び教諭の派遣)	()	()	()	()
		実績	児童生徒及び教諭の派遣				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	小学生10名、中学生10名及び教諭9名を秋田県へ派遣し、小学校と中学校それぞれ3日間、実際の授業に参加しながら学びの体験学習を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	各学校における児童・生徒の学校評価項目における発表力の向上、積極的授業への参加を醸成し学力(活用力)の数値をH25年度(小学校37%、中学校26%)から向上させる。	目標	()	(小学校37% 中学校26%)	()	()	()
		実績		小学校34.5% 中学校31.5%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	町内小・中学校の児童生徒及び教諭を秋田県へ派遣し、学力の中でも「自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすること」の活用力の面の向上を図った。その活用力の向上を図るため、派遣先の学校の時間割に沿って実際の授業に参加しながら秋田流学びの体験学習を行った。児童生徒・教諭それぞれが学習の様子や自分の意見を述べたり、書いたりする学習の基盤を体感し、学び得たものを各学校にて伝達するようにした。平成26年度では、小学校の数値が下回っているのは、秋田の授業に刺激を受けた反面、「積極参加」という面での評価が厳しくなり、数値が低くなったためであると考え、今後は中学校の向上した数値を低下させることなく維持し、小学校の数値の向上を目指す。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>平成26年度は、全国でも屈指の学力先進県である秋田県の授業スタイルを体験することで、嘉手納町の授業スタイルや学び方に取り入れられる部分を秋田県の学校において体験的に習得した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験事業において、秋田の取組を具体的に視察し、児童生徒が授業を体験し、本町へと持ち帰る項目や視点を明確にする必要がある。 ・引率する職員の派遣についてであるが、各学校の校長、教頭を代表者としているが、職員への波及効果の面を考えると多くの教職員の派遣を検討する必要がある。 ・「積極的授業への参加」の面での評価について、小学校での積極的参加について、授業スタイルを変容させ、児童の意見によって授業を構築していくような変化が求められる。 	<p>平成26年度は試行錯誤での体験事業であったが、実践化に向けて以下の点で改善が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験事業報告会で確認された内容、取組事項を、各学校での実践につなげられるように、指導計画の見直しを検討する ・秋田県での事例を、本町でも取り入れられるように解釈し、実践化の計画を立てる。 ・学校体制で取り組むため、職員の意識を啓発していく。 ・体験事業報告を報告書という形でまとめ、広く啓発するようにする。 ・授業スタイルを変えていくために、秋田型実践をモデルとして、日々の授業を変えていくように、嘉手納町でも秋田の取組を取り入れ、実践化につなげていく必要がある。

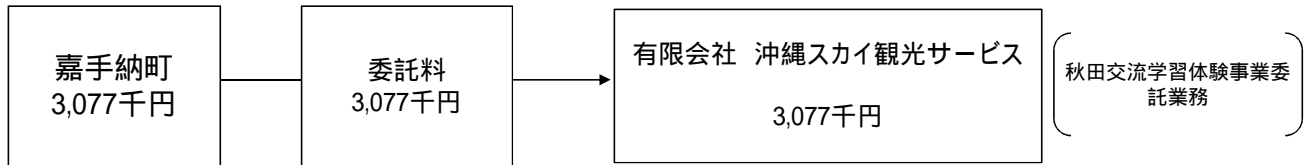
今後の取り組み方針

平成27年度は、以下の点を重点的に取り組む。

- ・体験事業で得たことを各学校で取り入れられるように視点を明確にする
- ・授業の系統性、統一の取組事項を確認し、町で取組事項の検討を行う
- ・体験事業による学校体制の確立と授業スタイルの確立
- ・体験事業参加の児童生徒の意識の変容と他児童生徒への波及効果を期待する

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,307	3,077	2,461	616	230



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は入札により選定している。 予算規模は業者より見積を徴し、計上したものであり、適正である。 費目・使途は事業目的に即し、移動や宿泊等の必要なものに限定されている。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	嘉手納町						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	学校ICT機器整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成26～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 -3-(1)	
事業内容	電子黒板及び実物投影機等を町立小中学校普通教室及び特別教室へ整備し、教材の視覚化、明確化による魅力的かつ分かりやすい授業環境を整える。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	59,613				
		(b)予算現額	33,067				
		(c)増減額(b-a)	26,546				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	33,067				
	B.執行済額	33,067					
	うち交付金充当額	26,453					
	次年度繰越額	-					
	執行率(%) (B/A)	100.0%					
予算の状況の説明	不用額26,546千円が発生しているが、入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	電子黒板及び実物投影機、周辺機器等の整備:機器を納品し、既存の無線LANへ接続、付属ソフト等をインストールし、普通教室及び特別教室へ配置する。 電子黒板64台、実物投影機55台整備。	目標	(電子黒板64台 実物投影機55台)	()	()	()	()
		実績	電子黒板64台 実物投影機55台				
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	計画通り、嘉手納町立小学校、中学校3校の普通教室47室及び理科室や音楽室等の特別教室17室に電子黒板及び64台を整備した。実物投影機は普通教室38室及び特別教室17室に整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	電子黒板64台、実物投影機55台整備。 整備率100% ICT機器を活用した校内研修等を充実させ、ICTを授業の場で活用する機会を設け、魅力的かつ分かりやすい授業スタイルへの変化、効率的な知識の習得と学習意欲の向上に繋げる。	目標	()	(整備率100%)	()	()	()
		実績		整備率100%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	町立小学校・中学校の全学級に電子黒板と実物投影機を配置し、分かりやすい授業を構築する環境を整えた。町単費でICT支援員を配置し、機器の活用方法等に関する知識や技術の習得を図った。今後は、より効果的な活用のためにデジタル教科書の導入を実施する。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を使用することにより、魅力的かつ分かりやすい授業を構築し、学力向上に繋げたい。そのためには、教諭がICT機器使用のための知識や技術を習得する必要がある。 授業の中で有効に活用するにはデジタル教科書が必要である。平成27年度には小学校、平成28年度には中学校がそれぞれ教科書改訂の年度となるため、順次、デジタル教科書を導入したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 単費でICT支援員を配置し、ICT機器を活用するための校内研修を計画・実施し、より分かりやすい授業を推進する。 情報担当者会議において各学校の使用状況や取り組み方法等の情報交換を行い、相互に効果的な取り組みを取り入れる。 教科書改訂に併せ、デジタル教科書を順次導入していく。

今後の取り組み方針

ICT機器をより効果的に活用するために、平成27年度に教科書改訂となる小学校へデジタル教科書の導入を実施。中学校は平成28年度に教科書改訂となるためデジタル教科書を平成28年度以降に導入する。
また、町情報者担当会議や校内研修において、活用方法についての情報交換の場を設け、児童生徒の学習意欲の向上に繋げる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
33,067	33,067	26,453	6,614	0



資金の 用途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	購入業者は入札により選定した。 予算は業者より見積を徴し、決定した。不用額が26,546千円となっているが、入札残によるものであり予算規模は適正な規模であった。 費目・用途はICT機器購入事業の目的に沿った支出であり適正であると考え。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	嘉手納町
------	------

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-	雇用促進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度	雇用機会の創出・拡大と求職者支援
			沖縄振興基本方針該当箇所	- 2

事業内容
 全国に比べ失業率の高い沖縄において雇用情勢の改善を図るため、就職相談窓口を開設する。就職相談窓口により求人・求職者を結ぶ就労支援を行い、求職者へ就職意識の高揚と事業者の雇用拡大に繋げていく。

実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()
------	------	----	----	----	---------

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	3,633	3,864			
	(b)予算現額	3,633	3,864			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)	3,633	3,864			
	B.執行済額	3,632	3,838			
	うち交付金充当額	2,905	3,070			
	次年度繰越額	-	-			
	執行率(%) (B/A)	100.0%	99.3%			
予算の状況の説明	概ね、計画通り予算を執行できたが、台風の影響により相談窓口が閉所したため、就職相談員の出勤日数が減となり、不用26千円が発生した。					

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
相談窓口開設数:98回	目標	(99回)	(98回)	()	()
	実績	99回	97回		
セミナー回数:51回	目標	(49回)	(51回)	()	()
	実績	49回	51回		
達成状況説明	・相談窓口について、台風の影響により1回閉所したため97回の開所となった。また講座については『就職活動基礎講座』および『応募書類の書き方講座』など就職に役立つ講座を51回開催した。これによって、求職者への就業に関する教育等が図られ、就業促進に結びつくことができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
		相談人数:200人	目標 ()	相談人数:200人	相談人数:200人	()
		実績	相談人数:185人	相談人数:399人		
	就職人数:50人	目標 ()	就職人数:30人	就職人数:50人	()	()
	実績	就職人数:23人	就職人数:46人			

進捗状況説明
 ・広報の強化により相談人数の数値は目標を超え達成することができた。
 ・就職人数が目標には達しなかった。求職者の就労に関するニーズと事業者の求人のミスマッチが原因だと考える。
 ・セミナーは予定していた回数全て開催することができたが、相談窓口は、台風により1日閉所した。
 ・引き続き相談窓口の開所とセミナーを開催する。
 ・昨年度より広報を強化したことにより受講者等の人数が増え、また就職者数も増えた。

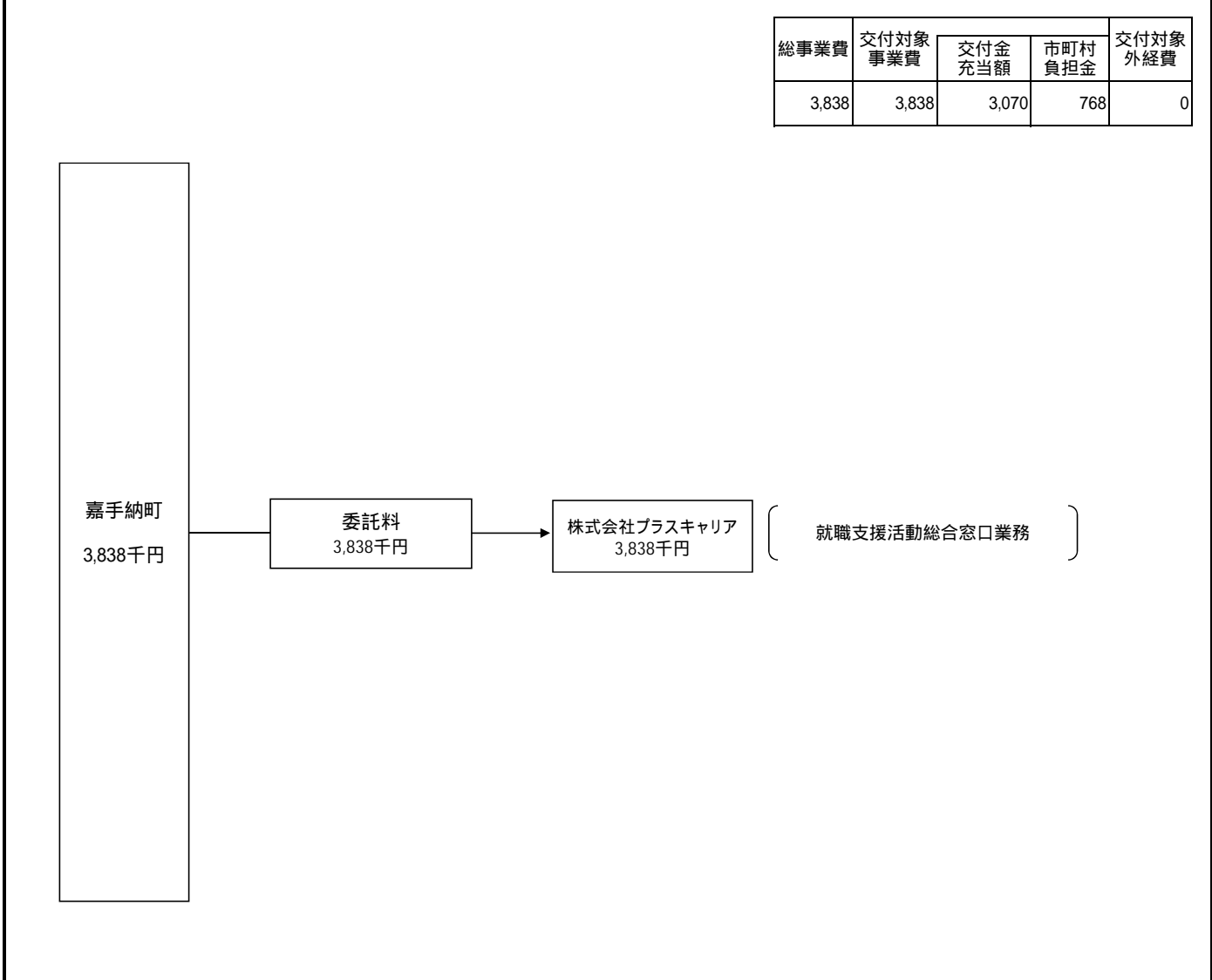
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>平成26年度は、相談窓口の開所およびセミナーの開設を継続して行い、新たな取り組みとしてハローワークでの周知を行うなど広報を強化した。その結果、相談人数が増加した。</p> <p>平成26年度の相談内容は 求職活動の仕方、職業訓練について、仕事の探し方求人情報の探し方や選び方などが多かった。その他に子育て(介護)と仕事の両立が難しい、年齢が不安といった生活環境の悩みや求人と求職のあっせんを求める声など、就労に関する様々な現状を確認することができた。</p> <p>現在、求職者の生活環境が多様化しているため、求職者の就労に関するニーズと事業者の求人がミスマッチであることが課題である。</p>	<p>多様化する求職者の就労に関するニーズを把握するためアンケート調査、相談内容や後追い調査を分析し、求職者のニーズ分析を強化する必要がある。</p> <p>引き続き、週2回の相談窓口の開所及び週1回のセミナーの開設を行うとともに、新たに求人と求職者のミスマッチを改善する効果的な手法を検証し事業を行う必要がある。</p> <p>より多くの求職者を支援するためにも、周知活動を引き続き行う必要がある。</p>

今後の取り組み方針

週2回の相談窓口及び週1回のセミナーを継続して行い、求職者の就労に関する悩みや共通して抱える課題を解決するための支援を行う。また、引き続きアンケート調査を行い、求職者のニーズを分析するとともに、新たな取り組みとして求職者と求人のマッチングを解消する機会を設けるため、企業説明会を開催する。

広報へのチラシ折込やハローワークでのチラシ設置など徹底した周知活動を引き続き図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託先は、相談員が変わることで相談者の不安を増す恐れがあると判断し、前年度と同じ事業者と随意契約を行った。なお、価格の妥当性を確認した結果、最低価格だったため妥当だと考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模に関しては3社から見積もりを徴収したため妥当だと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		嘉手納町					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4- 墓地整備基本計画策定事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-2-(6)-ア		
	地域特性に応じた生活基盤の整備						
担当部課名	産業環境課		事業実施(予定)年度 平成25～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所		
					- 12		
事業内容	本計画は嘉手納町全域(米軍基地を除く)を対象とし町内に立地する墓地の状況や住民意向を把握し、墓地の集約や適正配置に関する計画を策定するとともに、住民に対して墓の建設や管理に関する規則の周知徹底を行い、嘉手納町における墓地の望ましいあり方の方針を示すため実施する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	4,771	6,102			
		(b)予算現額	4,717	6,102			
		(c)増減額(b-a)	54	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	4,717	6,102			
	B.執行済額		4,515	6,102			
	うち交付金充当額		3,612	4,881			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		95.7%	100.0%			
予算の状況の説明		住民アンケートの結果を元にした嘉手納町墓地整備基本計画(素案)の作成、検討委員会の開催、嘉手納町墓地整備基本計画(素案)に関する意見募集(パブリックコメント)の実施、嘉手納町墓地整備基本計画(素案)に関する住民説明会の開催などを実施しており、当初計画していた事業内容はすべて実施し、執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	町内に立地する墓地の状況を踏まえ、集約地域や集団墓の検討を行う。	目標	(集約地域や集団墓の検討)	()	()	()	
		実績	集約地域や集団墓の検討の実施				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	平成25年度に実施した住民アンケートの結果を元に嘉手納町墓地整備基本計画(素案)に関する意見募集(パブリックコメント)、嘉手納町墓地整備基本計画(素案)に関する住民説明会を行い集約地域や集団墓についての検討を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	墓地基本計画の策定	目標	()	(墓地基本計画の策定)	()	()	()
		実績		墓地基本計画の策定完了			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	平成26年度においては、住民アンケートの結果を元に嘉手納町墓地整備基本計画(素案)を作成し検討委員会を3度開催した。さらに嘉手納町墓地整備基本計画(素案)に関する意見募集(パブリックコメント)、嘉手納町墓地整備基本計画(素案)に関する住民説明会を行い墓地整備基本計画を策定した。平成27年度に墓地整備基本計画をもとに墓地等の経営の許可等に関する条例規則を制定し運用を行う。					

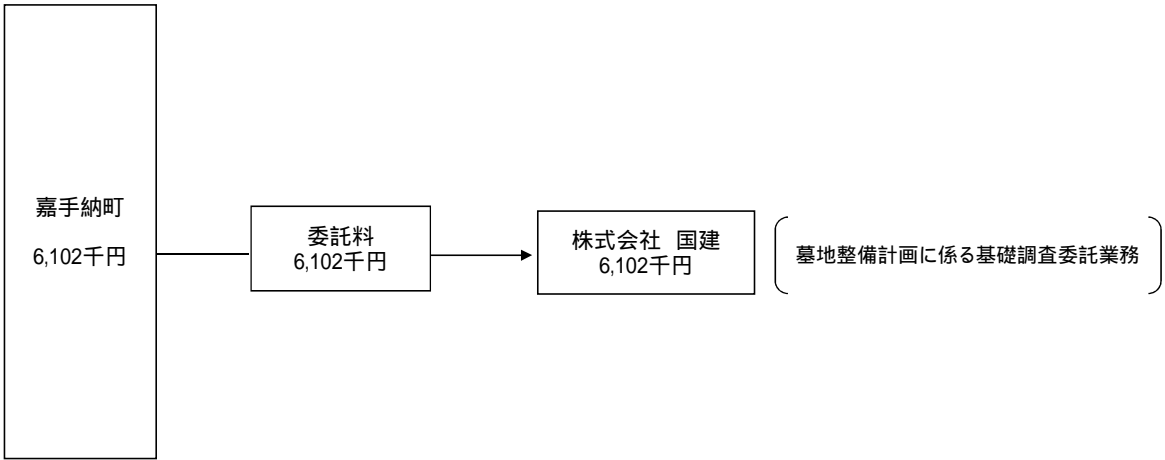
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本町においては、墓地が集落内に混在している状況にあり、また米軍基地の影響により墓地と集落の位置が近接する状況になっているため、住環境や景観等に影響をもたらしている。本事業では、本町における墓地の望ましいあり方について指針を示すことを目的とする。</p> <p>平成26年度は、住民アンケートの結果を元に嘉手納町墓地整備基本計画(素案)に関する意見募集(パブリックコメント)、嘉手納町墓地整備基本計画(素案)に関する住民説明会を行い墓地基本計画を策定した。</p> <p>住民説明会においては当初予定していた参加人数よりは16人と少なかったが、質疑においては墓地の移転や建設等で延べ10件の質問があった。</p>	<p>平成26年度に住民アンケートの結果を元に嘉手納町墓地整備基本計画を作成したので、今後は嘉手納町における墓地の基本的な考え方である本計画の住民への周知をホームページや広報等で強化する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

今後は、嘉手納町墓地整備基本計画をホームページや広報等で住民への周知を図る。
 また、嘉手納町墓地整備基本計画をもとに墓地等の経営の許可等に関する条例及び規則を策定し、墓地等の経営の適正化及び墓地等と周辺環境との調和を図る。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
6,102	6,102	4,881	1,221	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は、指名入札で企業組織、実績知識等を勘案して選定している。 予算規模については3社から見積もりを徴収し比較検証したうえで算定していることから、適正な規模であると考え。 費目・用途については額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であると考え。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		嘉手納町						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5-		廃棄物リサイクル事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア		
	担当部課名	産業環境課		事業実施(予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	3Rの推進	
事業内容		本町では一般家庭及び事業者から年間約600トン程度の木くず(草、剪定枝等)が排出されており、また、台風等での公園・街路樹の倒木処理は産業廃棄物として最終処分場で処理している状況である。一方、本町で策定されている一般廃棄物処理基本計画において、木くず等を焼却せずチップ化し、再資源化することで町内の土地づくりや堆肥に利活用する施策があり、これらの木くず等の再資源化を実施し、本計画の推進を図る。						
	実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額		16,072	50,214			
		(b)予算現額		16,072	50,214			
		(c)増減額(b-a)		0	0			
		(d)繰越額		-	-			
		A.計(b+d)		16,072	50,214			
	B.執行済額			16,072	44,195			
	うち交付金充当額			12,857	35,356			
	次年度繰越額			-	-			
	執行率(%) (B/A)			100.0%	88.0%			
予算の状況の説明		当初の予定の事業内容はすべて実施した。不用額6,019千円は新型のリサイクラー(草木粉砕用)とパワーショベルの競争入札の結果、当初予定した金額を下回る金額で契約できたことによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度		
	嘉手納町一般廃棄物処理基本計画推進	目標	嘉手納町一般廃棄物処理基本計画の推進	嘉手納町一般廃棄物処理基本計画の推進	()	()		
		実績	嘉手納町一般廃棄物処理基本計画の推進(実施)	嘉手納町一般廃棄物処理基本計画の推進(実施)				
	不適正処理(不法投棄等)の是正	目標	(不適正処理(不法投棄)等の是正)	(不適正処理(不法投棄)等の是正)	()	()		
		実績	不適正処理(不法投棄)等の是正(実施)	不適正処理(不法投棄)等の是正(実施)				
	木くずの再資源化(チップ化)	目標	(木くずの再資源化)	(木くずの再資源化)	()	()		
		実績	木くずの再資源化(チップ化実施)	木くずの再資源化(チップ化実施)				
	達成状況説明		嘉手納町一般廃棄物処理基本計画に沿って実施した。草木の回収を事業とすることで草木における搬入量が226kgあり、不適正処理(不法投棄等)の是正につながった。チップ化(34kg)により草木等の木くずの再資源化及び一般廃棄物の減量化となった。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
ゴミの減量化(目標約5%削減)		目標	()	(一般廃棄物約5%削減)	(約5%削減)	()	()	
		実績		草木の搬入量(60%減)	約6.2%削減			
処理費の節減		目標	()	()	(処理費の節減)	()	()	
		実績			処理費の節減の実施			
進捗状況説明		26年度における町内で搬入される可燃物と草木の搬入量の合計は3,672kgとなり、そのうち草木の搬入量は226kgとなる。草木をリサイクルとしているので、搬入される可燃物より草木分のゴミの減量化としては6.2%の減となる。目標のゴミの削減率5%を上回っている。6.2%のゴミの減量化により、一般廃棄物処理費の節減が測られた。今後もゴミの減量化(目標約5%削減)に取り組む。						

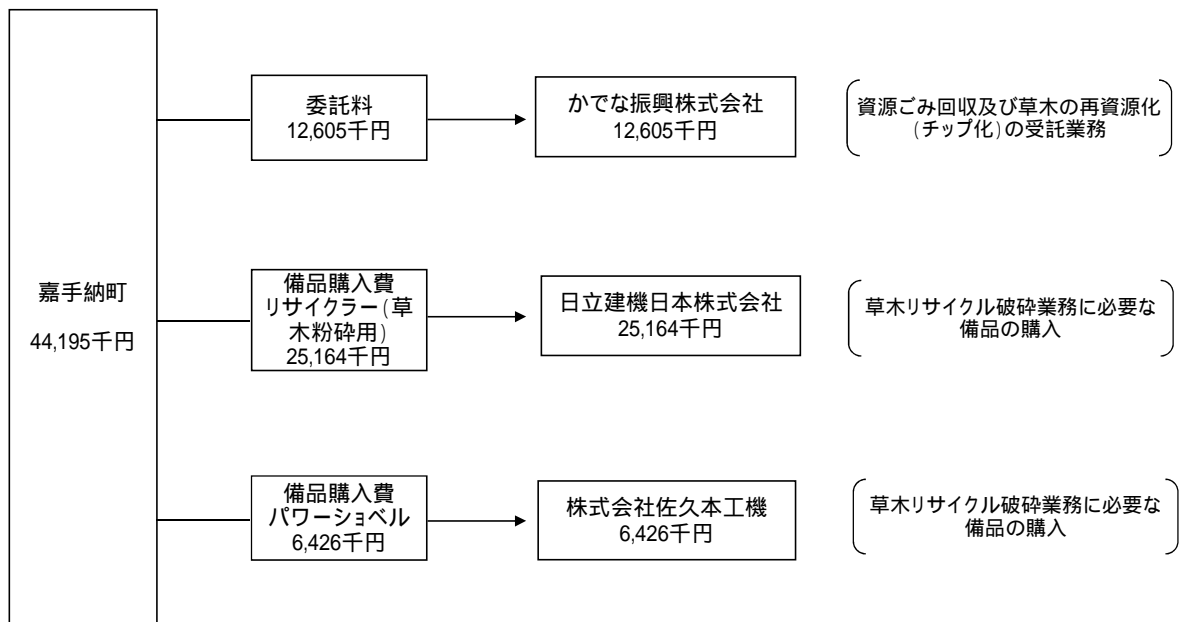
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>一般廃棄物としての草木の搬入は大幅に減っている。チップも住民や農家に無料配布し、畑の堆肥、庭のクッション材として、また雑草などのマルチングにも効果がでており需要はある。これまでの処理能力の問題により、年度内で搬入される草木すべてをチップ化とすることはできなかった。</p>	<p>平成26年度に、新型のリサイクラー(草木粉碎用)、パワーショベルを購入したことで、27年度においては大きく作業能率が上がり多くのチップを町民へ配布できることが見込まれる。</p>

今後の取り組み方針

平成26年度に導入した、新型のリサイクラー(草木粉碎用)、パワーショベルを活用し、平成27年度においては、チップの生産量を増加し、多くの町民へチップを配布する。今後、草木の回収及びチップ化をより一層推進し、住民に対し、草木の回収事業及びチップ配布の周知徹底と啓発を図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
44,195	44,195	35,356	8,839	0



資金の流 れ、費 目、 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>委託業者は、随意契約であるが、長年本町のごみ回収業務を行っており、経年の処理技術及びデータを持っており組織、実績、知識等を勘案して妥当である。備品購入における業者については入札により選定した。</p> <p>予算規模は、長年実績のある委託業者より事業目的に即した見積りを徴収し、内容を庁内にて確認し、適正と判断した。備品購入については3社から見積もりを徴収し比較検証したうえで算定していることから、適正な規模であると考えられる。</p> <p>費用・使途についても目標達成に必要なものなのか等について額の確定時において支出等の書類で確認しており、適正である。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名 6- 安全・安心、人にやさしく、災害に強いまち『嘉手納町』整備事業 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第3章-2-(4)-イ

担当部課名 総務課 事業実施(予定)年度 平成26年度 沖縄振興基本方針該当箇所 災害に強い県土づくりと防災体制の強化 -10-(2)

事業内容 嘉手納町内の防災・減災の強化の実現に向けて、地域防災計画の整備を行い、合わせて避難マニュアルの作成、避難所の運営マニュアルの作成を行い、町民をはじめとする来町者に対する災害時の速やかな避難行動・避難誘導、避難所設置運営を図り、本町の安全・安心の確保と人にやさしく、災害に強いまちづくりを実施する。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	9,386				
	(b) 予算現額	9,386				
	(c) 増減額(b-a)	0				
	(d) 繰越額	-				
	A. 計(b+d)	9,386				
	B. 執行済額	9,385				
	うち交付金充当額	7,508				
	次年度繰越額	-				
	執行率(%) (B/A)	100.0%				
	予算の状況の説明	嘉手納町内の防災・減災の強化の実現に向けて、地域防災計画の整備を行い、合わせて避難マニュアルの作成、避難所の運営マニュアルの作成を行い、当初計画していた事業内容はすべて実施し、執行した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
嘉手納町の防災・減災の強化	目標	(嘉手納町の防災・減災の強化)	()	()	()
	実績	嘉手納町の防災・減災の強化の実施			
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	当初計画していた事業内容、地域防災計画の整備・避難マニュアルの作成・避難所の運営マニュアル作成をすべて実施し嘉手納町の防災減災の強化が図られた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
			地域防災計画の整備	地域防災計画の整備	()	()
	実績		地域防災計画の整備完了			
避難マニュアルの作成	目標	()	避難マニュアルの作成	()	()	()
	実績		避難マニュアルの作成完了			
避難所の運営マニュアル作成	目標	()	避難所の運営マニュアル作成	()	()	()
	実績		避難所の運営マニュアル作成完了			
進捗状況説明	当初計画していた事業内容、地域防災計画の整備・避難マニュアルの作成・避難所の運営マニュアル作成はすべて実施した。地域防災計画の整備は災害対策基本法の改正に伴う項目の修正や追加を行った。避難マニュアルは災害に対する基本的な心構えや災害発生時の行動、避難場所、緊急連絡先を整理したものとなっており、このマニュアルを全世帯に配布し防災の啓発に役立てる。避難所のマニュアルは災害時に速やかな避難所設置運営を図るための、避難所の開設・運営・撤収までの流れを整理した。					

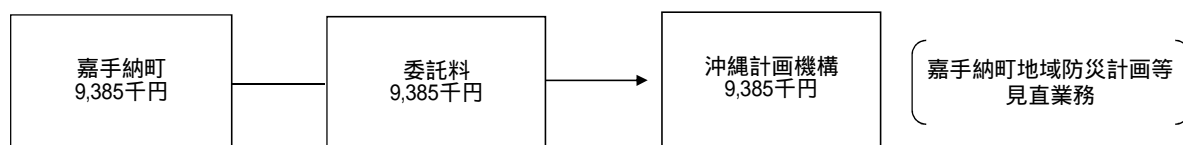
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	地域防災計画の整備及び避難マニュアルの作成・避難所の運営マニュアルの作成をし、災害時避難行動マニュアル(地震や家族の身を守るために)を全世帯に配布し防災への啓発を図っていく。避難所運営マニュアルは、災害発生時から避難所開設・運営・撤収の流れを整理したが、今後、区民及び関係者等がマニュアルどおり活用できるように訓練を行っていく必要がある。	災害時の応急対策として、災害避難・救助施設の整備や災害対策用食糧の備蓄整備、備蓄倉庫を含めた備蓄資機材の整備が急がれる。災害発生時に円滑に防災活動が行えるよう、防災体制の確立並びに防災思想の普及を図るために、本町をはじめ防災関係機関、住民、事業所等団体が一体となって防災訓練を実施していく。

今後の取り組み方針

この計画、マニュアルを活用した町民をはじめとする来町者の参加による防災訓練を実施するとともに避難マニュアルを活用しての避難所の場所・避難経路の確認を行う。避難所の運営マニュアルについては、町民や自主防災組織等の協力を得て、備蓄資機材等を活用してマニュアルどおり避難所運営できるように訓練を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金	交付金	
9,385	9,385	7,508	1,877	0



資金の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託先選定については、前年度プロポーザルで受注した業者に随意契約した。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模は見積を3社から徴取し、比較した結果委託費を決定しているので妥当と考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	費目、用途については、地域防災計画及び避難マニュアル(全世帯に配布)避難所の運営マニュアル(各区自治会)を製作時に検査をしており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 嘉手納町

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-	沖縄フェスティバルinハワイ派遣事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-エ
担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度 平成25～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化の発信・交流 - 3

事業内容 沖縄の伝統文化の継承を目的とし、ハワイで開催される「沖縄フェスティバル」へ町内の無形文化財保存団体を派遣し、ハワイ在住の県人会、町人会との伝統芸能を通しての交流を図るとともに、町内の無形文化財保存団体の育成を図る。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	5,150	8,323			
	(b)予算現額	5,138	8,323			
	(c)増減額(b-a)	12	0			
	(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)	5,138	8,323			
	B.執行済額	5,137	6,500			
	うち交付金充当額	4,109	5,200			
	次年度繰越額	-	-			
	執行率(%) (B/A)	100.0%	78.1%			
予算の状況の説明		・当初予算額に計上していた朝食代4日分(宿泊代に含め見積りしていた)の減額と演舞団体のサポートのための参加者2名を派遣団体の負担とし、派遣対象者を37名から35名に変更したことによる派遣費の減額及び入札の際の減額により1,823千円の不用が発生した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
フェスティバル参加(演舞2回)	目標	(3回)	(2回)	()	()
	実績	3回	2回		
県人会、町人会交流	目標	()	(交流)	()	()
	実績		交流		
達成状況説明	・フェスティバル2日目の舞台での演舞、アロハパーティー(フェスティバル終了翌日に県人会主催で開催)での演舞を実施し、また、公式な場ではないが町人会との交流会でも披露している。 ・到着日の町人会交流会、フェスティバル1日目終了後の盆ダンス、アロハパーティーへ参加。フェスティバル会場内でも積極的に交流を図った。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
派遣団体の町内活動の強化	目標	()	(強化)	()	()	()
	実績		強化			
派遣報告書作成及び報告会の開催	目標	()	(報告書作成 報告会実施)	()	()	()
	実績		報告書作成済 報告会未実施			
現地での県人会・町人会との交流活動	目標	()	(2回)	()	()	()
	実績		2回			
フェスティバルへの派遣人数	目標	()	(35名)	()	()	()
	実績		35名			

進捗状況説明
 ・保存継承活動が停滞していた「屋良のエイサー」を再興し、フェスティバルで発表することができた。また、青年部の活動が活発になり、これまで、活動が停滞していた「獅子舞」についても、活動を再開している。
 ・派遣報告書については、提出されているが、報告会については、団体との日程が調整できず実施できなかった。今年度実施できなかった報告会については、27年度に実施するよう団体と調整をしている。
 ・派遣期間中に、嘉手納町、ハワイのそれぞれの芸能活動等について、情報交換することができた。

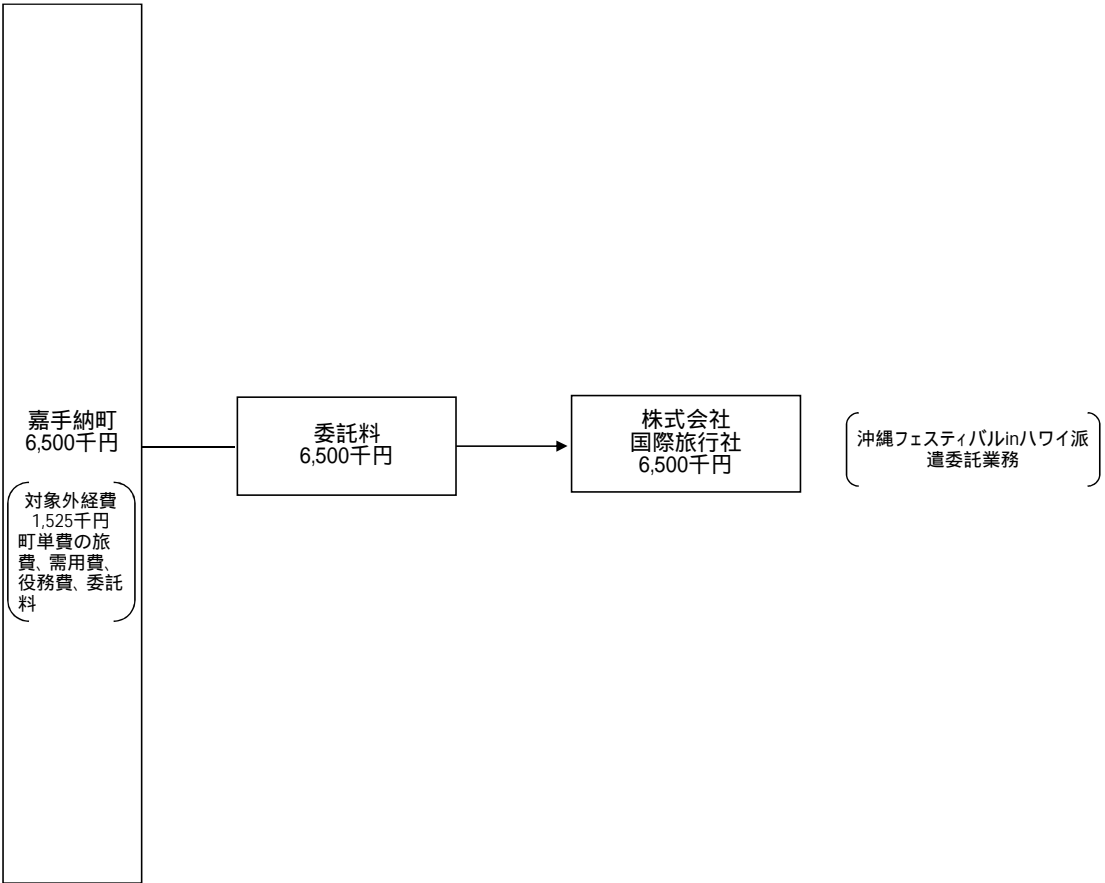
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の無形文化財保存団体の活動の衰退、継承者が減少している現状があり、派遣団体も町内の他団体と同様の課題を抱えていた。 ・ハワイへ派遣決定したことで、団体の意識が変わり、団体独自のエイサーの型の復元や活動停止していた「獅子舞」の再開を進めている。 ・活動は活発化しているが、継承者が増加しているわけではないため、引き続き町民へ活動の周知を図る必要がある。 ・報告会を予定していたが、日程の調整ができず開催できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無形文化財保存団体の相互の情報交換をし、課題等について話し合い改善策を見出す。 ・芸能を発表する機会を増やし、活動、練習する場の確保をする。 ・町内無形文化財に関する情報を発信することで、団体や団体の活動を周知する。 ・団体との連絡を密にとり、日程調整を行う。

今後の取り組み方針

- ・沖縄フェスティバル派遣団体の報告会を実施し、活動状況を報告する。
- ・町内の無形文化財保存団体等(旧字:13箇所)の地域の伝統、芸能などについての情報交換を行う場を設定する。
- ・町内の既存事業で、芸能を披露する場がないか調整、検討する。
- ・活動、練習する場として、町施設等を活用する。
- ・町内施設等へ、無形文化財等の活動、歴史の写真、資料等の展示することにより周知を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
8,025	6,500	5,200	1,300	1,525



資金の用途の流、費目、点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託業者については、指名競争入札で実績等を考慮し選定している。 ・予算規模については、フェスティバル等公演に必要な人数の派遣費を対象としており、適正だった。 ・費目・用途については、事業目的に沿った支出と判断するため、適正な支出と考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		嘉手納町					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-	ロータリープラザ照明機能向上事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会 中央公民館	事業実施(予定)年度	平成26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地球温暖化防止対策の推進 -10-(1)	
事業内容	低炭素島しょ社会の実現に向けて嘉手納町ロータリープラザ照明をLED化するため、設計、工事を行う。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		(a)当初予算額	43,547				
		(b)予算現額	43,547				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)	43,547					
	B.執行済額	32,689					
	うち交付金充当額	26,151					
	次年度繰越額	-					
	執行率(%) (B/A)	75.1%					
予算の状況の説明	不用額10,858千円については、実施設計による検証の結果、当初の工事予定から機器の取替が必要となる箇所について事業対象外としたことによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
	ロータリープラザ照明機能向上実施設計	目標	26年度	27年度	28年度	29年度	
		(ロータリープラザ照明機能向上実施設計)	()	()	()	()	
	ロータリープラザ照明機能向上工事	目標	26年度	27年度	28年度	29年度	
		(ロータリープラザ照明機能向上工事)	()	()	()	()	
	達成状況説明	実施設計によって、施設内の既設照明を調査し、LED化が可能な箇所を洗い出した。これにより、防災用照明は、仕様を満たす機器がないため対象外とした。また、調光機能を持つ箇所は照明器具の取替が必要のため対象外とした。工事中は、実施設計によりLED化が確定した箇所について実施し、完了している。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	CO2削減量において、対前年度同月比のCO2削減量40%削減	目標	()	(対前年度同月比のCO2削減量40%削減)	()	()	()
		実績		CO2削減量31%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	実施設計により、LED化が可能な箇所を洗い出し、該当する分について工事を行い完了した。蛍光灯との比較では、50%程度の電力使用量削減効果があるため、対前年度同月比のCO2削減量40%削減を目標としたが、実際のところは31%の削減となった。施設使用の状況が前年度と単純比較できないが、今後は空調による電力使用量を極力排除したデータを抽出したうえで、空調の稼働シーズンとそれ以外の時期の比較も行う。そのため、少なくとも1年間のモニタリングが必要である。						

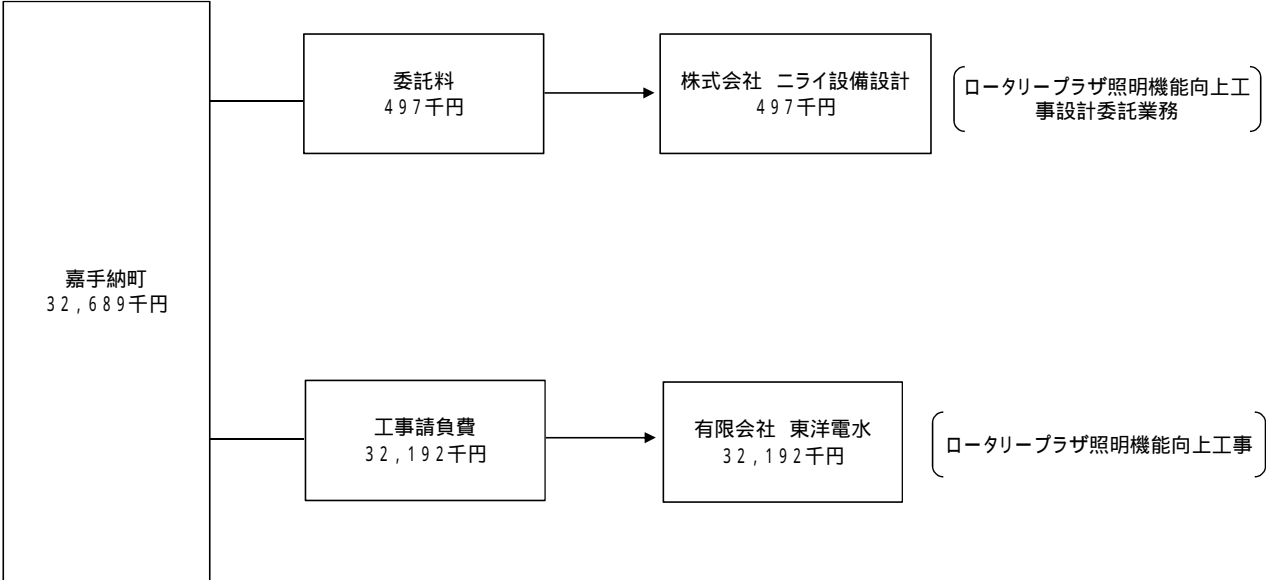
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>二酸化炭素の排出等による環境破壊が進むなか、低炭素島嶼社会の実現に向けた取り組みとして、エネルギー使用の効率化を図るため、施設内照明をLED化することによって、消費電力の削減とCO2排出量の削減を行う必要がある。</p> <p>実施設計において施設内照明のうちLED化が可能な箇所を洗い出し、該当箇所について工事を実施した。LED照明は、その仕様上通常照明と比較し、CO2の削減率を40%と試算した。(電力使用量50%程度削減)</p> <p>結果としては、目標としていたCO2の対前年度同月比40%削減に届いていない。これは、仕様上の問題により本事業の対象から外した照明の分がCO2削減効果を引き下げる結果となったと認識している。</p>	<p>今回のLED化事業については、実施設計による洗い出しにより、すべての照明機器を対象とすることができなかった。</p> <p>その結果、前年度同月比でCO2削減率が31%であった。今後、事業対象外とした機器のLED化を視野に検証を続けるとともに、施設使用状況を含めその他の影響について考慮し、モニタリングを行っていく。</p>

今後の取り組み方針

・設計時に対象外とした従来型照明をLED照明に交換する。
 ・CO2排出のさらなる削減のため、大きな削減効果が見込める空調機器(冷房)の高効率化を検討する。具体的には、窓ガラスの遮熱対応などが考えられるが、現在行っているモニタリングを継続し、効果の有効性などを検証する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
32,689	32,689	26,151	6,538	0



資金の流 れ、費 用、 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は町内電気工事業者のうち県Aランクを指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 予算規模は設計結果による事業費減で不用額が2.5%となったが、当初予算設定の段階で実施範囲を絞ることができれば、不用額を減らし、さらに適切な規模で対応できた。 費目・用途は、設計、工事それぞれの精算段階で検査を実施した結果、目的に即し、必要なものであったと判断した。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-	嘉手納町防犯灯・街路灯LED化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ア	
担当部課名	都市建設課	事業実施(予定)年度	平成26～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地球温暖化防止対策の推進 -10-(1)	
事業内容	低炭素島しょ社会の実現に向けて嘉手納町防犯灯・街路灯LED化するため、現況の調査及び設計をおこなう。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	7,297				
		(b)予算現額	7,297				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	7,297				
	B.執行済額		6,123				
	うち交付金充当額		4,898				
	次年度繰越額		-				
	執行率(%) (B/A)		83.9%				
予算の状況の説明		当初予算額では7,297(千円)(委託)であったが、不用額の1,174(千円)は入札残によるものである。当初計画していた事業内容は計画どおり執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
	町内全域の防犯灯・街路灯の現況調査設計		26年度	27年度	28年度	29年度	
		目標	町内全域の防犯灯・街路灯の現況調査設計	()	()	()	()
		実績	町内全域の防犯灯・街路灯の現況調査設計				
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	本事業は、町内に設置されている全ての水銀灯等の防犯灯の現状を把握し、LED防犯灯を設置する為の業務を行った。その結果、現状を把握することが出来、平成27年度から順次、嘉手納町地内の防犯灯等のLED化を行う。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	全防犯灯・街路灯の調査完了	目標	()	全防犯灯・街路灯の調査完了	()	()	()
		実績		全防犯灯・街路灯の調査完了			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	調査設計業務が完了し、平成27年度から町内防犯灯等の取替え工事を実施することにより、防犯灯等の消費電力の50%削減を目標にし、二酸化炭素の排出量をこれまでの60%削減し低炭素島しょ社会の実現を推進する。					

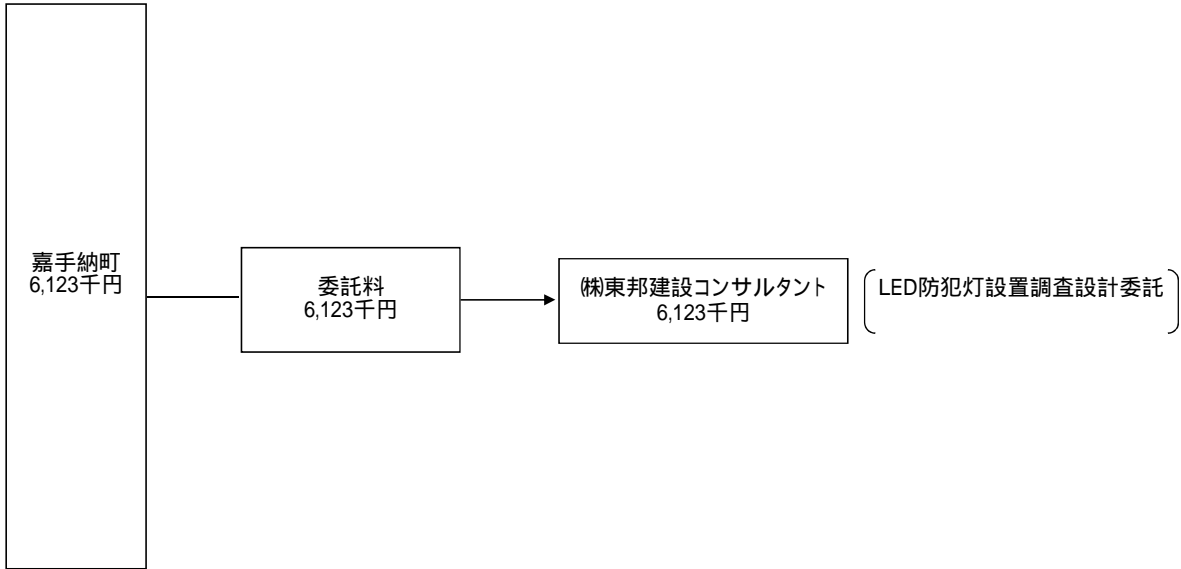
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素の排出等による環境破壊が進むなか、低炭素島しょ社会の実現に向けた取り組みを推進していくなかで、安心・安全なまちづくりと、エネルギー利用の効率化を両立するために、防犯灯・街路灯をLED化し消費電力の削減及びCO2排出量の削減を行う必要がある。 ・LED防犯灯の取替え工事を一度に行うと、一時的に不点となる箇所が出てくる。 	防犯灯・街路灯のLED化において、取り換え箇所を個々に決定し、不点箇所を間引きし、既存の防犯灯の機能を有しながらのLED化事業を計画的に実施していく必要がある。

今後の取り組み方針

- ・平成27年度事業は既存防犯灯よりLED防犯灯450灯の取替えを実施する。
- ・防犯灯等を計画的にLED化を実施することにより、消費電力の50%削減を目標にする。それにより二酸化炭素の排出量を60%削減し低炭素島しょ社会の実現を推進する。
- ・地域の安心・安全を確保する為、取替え工事を円滑に実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
6,123	6,123	4,898	1,225	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○見積りを3社から徴取し、委託費を決定しているので妥当だと考える。 費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		嘉手納町					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9- 食育まんが啓発推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-2-(1)-ア		
	町民保険課		事業実施(予定)年度 平成26～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所 -4		
事業内容		地域の高齢者から長寿といわれる戦前の食生活を聞き取りまんがを制作する。食育まんがを普及啓発することにより長寿の知恵を次世代へ継承し、健やか長寿のまちかでの実現を図る。					
実施方法		直接実施 委託 補助 負担 その他 ()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	1,199				
		(b)予算現額	1,199				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	1,199				
	B.執行済額		1,199				
	うち交付金充当額		959				
	次年度繰越額		-				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初の計画どおり期間内に事業が完了し、予算執行したため執行率100%となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	まんがの配布3,000部	目標	(3,000部)	()	()	()	
		実績	3,000部				
	児童生徒への配布率(100%)	目標	(100%)	()	()	()	
		実績	100%				
達成状況説明	食育まんがを3,000部印刷し、関係各所へ配布することができた。また、配布対象である町内認可保育園保護者から中学生まで全ての対象者に配布することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(25年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	平成26年度 町立保育所実施「食生活に関するアンケート」により「食育」の周知度や食生活の意識の向上度を測る。	目標	()	(「食育」の周知度や食生活の意識の向上度を測る)	()	()	()
		実績		「食育」の周知度や食生活の意識の向上度を測った			
	〔参考指標〕 保育所保護者へのアンケートより、「食育の日」の認知度	目標	(7.7%)	(増加)	()	()	()
		実績		15.4%			
	〔参考指標〕 保育所保護者へのアンケートより、食育の言葉と意味を理解している者の割合	目標	(52.4%)	(増加)	()	()	()
実績			57.7%				
進捗状況説明	相対的にみる指標として、保育所保護者に対して行っているアンケートを参考指標とした。その結果、食育に関する項目で改善傾向がみられ、食生活の意識向上につながったと考えられる。今後も食育まんがを普及啓発を継続し食生活の意識の向上を図る。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	町が実施したアンケートから、食育の認知度が全体の1割に満たない結果であるため、初年度は食育の周知を目指して「なぜなに食育?編」の内容で制作を行った。	単発の情報発信にならないよう、年に2回のまんが制作を行う。
	健康的な食生活の習得には継続した取組みが必要と考えることから、単発の事業実施ではなく継続的な取組みが必要である。	対象者が興味を持ち、自身のことと考えられるよう身近な題材を取り上げるなど、内容を工夫する必要がある。
	まんがの普及啓発だけでは長寿の知恵を継承できるとは限らない。	情報提供にとどまらず、まんが内で紹介したレシピを活用した調理実習の開催など、まんがを媒体とした体験型の事業が必要である。
	次年度以降、対象外の者(卒業生、新入生等)に対しても同様の情報提供が求められる。	対象者以外にも食育まんがを普及する方法を検討する。

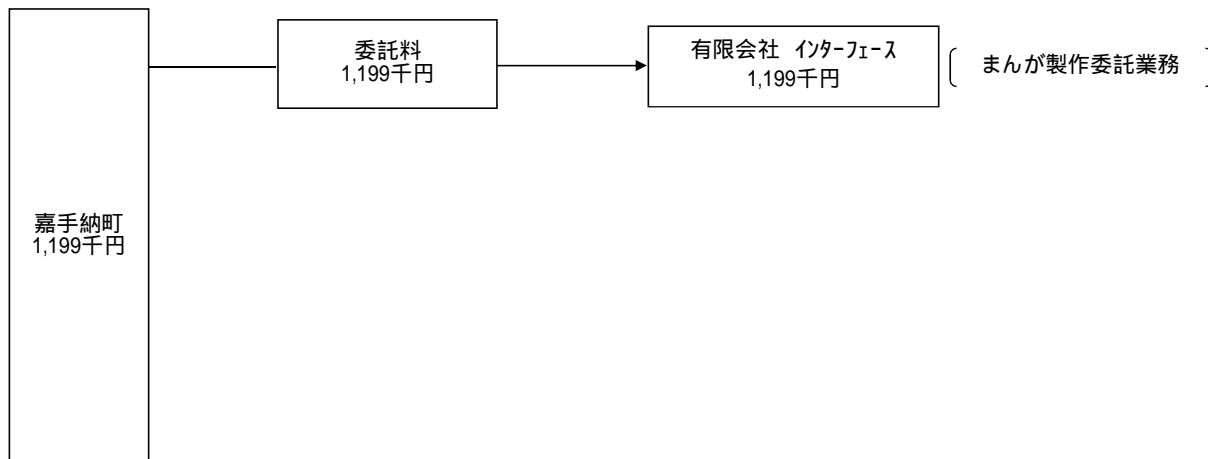
今後の取り組み方針

- ・食育に関する課題は多岐にわたることから、さまざまな視点から地域の現状を取り上げ課題解決につながるまんがを制作していく。また、作成したまんがを媒体に町内での食育講座や調理実習を実施し食育の推進を図っていく。
- ・対象者以外にも食育まんがを普及できるよう電子ブック化等を検討する。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
1,199	1,199	959	240	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	○予定価格が嘉手納町契約規則で定められた額を越えないため随意契約とし、内部審査により本事業のイメージや業務実績のある業者を選定した。 ○予算規模は2社から見積りを徴し、比較検討したため適正な規模と考える。 費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		